銀河戦国群雄伝14
ライ
真鍋譲治
Dengeki Comics EX
DC EX
銀河戦国群雄伝ライ
14
真鍋譲治
DE-5-14
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

9784073052548

1910979009500

ISBN4-07-305254-3

C0979 P950E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価950円(本体922円)

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

エンジェルアーム①～⑦
衣谷 遊

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

電撃摩陀羅海賊本①
田島昭宇 原作
with MADARA PROJECT

MADARA赤LASA①～③
田島昭宇

MADARA壱①～④
田島昭宇

MADARA転生編
田島昭宇with MADARA PROJECT

MADARA外伝
死海のギルガメシュ
花津美子with MADARA PROJECT

幼稚園戦記まだら①～④
義見依久with MADARA PROJECT

聖痕のジョカ①～⑤
大塚英志 原作 相川 有 作画

銀河戦国群雄伝ライ①～⑭
真鍋譲治

緋翔伝幾千の月のかけら**①～⑤**
夢来鳥ねむ

魔狼王烈風伝①～⑥
沢田 翔

メビウスクライン⓪
麻宮騎亜

女神天国新女神誕生編
宮須弥

ネコた～ぼ16V①
そうま竜也

闘神伝2
大友紀弥

摩陀羅RPG
MADARA PROJECT

ダーティペアFLASH
牧原ひさと
高千穂 遙オリジナルクリエイター

超神Z①
作・司徒劍僑
訳・MADARA PROJECT

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

ガンドライバー①②
ピトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①
うたたねひろゆき

最終機攻兵メタルスレイダー
グローリーエイミアの面影**①**
☆よしみる

スタービンキーQ①②
只野和子作画 眠田 直原作

ローティスなあじゃ
おおのやすゆき

極道くん漫遊記①
桐嶋たける
中村うさぎ原案

レジェンド・オブ・クリスタニア①～③
はじまりの冒険者たち
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案

テレビアニメ版
神秘の世界エルハザード①～⑤

女神天国SP
うらべ・すう

JAJA姫武遊伝①
中村うさぎ原作 衣谷 遊作画

流れ星のジャッカル
島本和彦

魔獣水滸伝KIZNA①
ピトウ ゴウ原作
夏野すいか作画

ぽっぷるメイル
藍崎ゆう

太陽の少女インカちゃん①
小野敏洋

ダーティペアFLASH DX
Key&Yuri
大野竹丸
高千穂 遙オリジナルクリエイター

誕生～Debut
蘭宮 涼

DC EX

銀河戦国群雄伝ライ 14

真鍋譲治

DE-5-14
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics

RAI

BY JOJI MANABE

14

銀河戦国群雄伝

ライ

• ARTIST
JOJI MANABE

• EDITOR
MASAHITO ARINAGA
ANRI KOMATSU

• BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

• SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
SHINICHI YAMAGUCHI
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

竜我雷 りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼牙に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座士郎に一番乗りを果し、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のクーデター時には、南京楼の太守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で着代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、激戦を展開、ついに金州海にて、恩師狼牙を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、まもなく全五丈を平らげる。

雲海入道 うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。雷の密命を受け、暴政下の武主都に残り、麗羅の保護を依頼され、その身柄を無事雷の元に届けた。

太助 たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉王都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど身軽さを生かした活躍が光る。

大覚屋師真 だいがくやしし

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、芸だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮、劣勢下の南京楼軍を勝利に導く。

紫紋 しもん

麗羅 れいら

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

孟閣 もうかく

男勝りの五丈の王女。弾止という強大な権力を背景に我がままし放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした事もある。弾止の死後、骸羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雷の命を受けた雲海に保護され、雷の元に落ち着く。

三楽斎 さんらくさい

南京楼軍の武将。主人連が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する、能吏派軍人。

鐘士元 しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真の様な新参者とは反りが合わず、常に対立するが、初戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入り、金州海の決戦に於いては顕著な活躍をする。

姚文 ようぶん

南京楼軍の武将。鐘士元等と共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には逆らわず、よく戦い、骸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。その後も、金州海や各地の戦いに於いて戦功を上げ、雷の五丈平定を助ける。

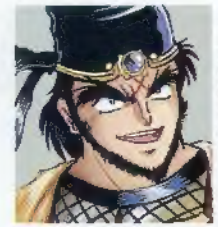
項焉 こうえん

南京楼軍の勇将。南天との国境近くに根拠を持ち、部上二千を従える大海賊。やがて雷の度量の大きさに感服して

一族郎党共々帰順、齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。

【項武】こうぶ

項馬の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深慮遠謀が欠けるところもあったが、敵味方共に認める、千軍万馬の強者である。



【林則嘉】りんそくか

南景楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さを持って数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。特に金州海の決戦に於いて逸る雷を諫めたのは特筆される。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

【如晦】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。士官をせず、しばらく田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、右大臣西豹により推薦され、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ幕下に入る。玄偉の殺害を雷に強く勧めた。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天の統一に専念、事実上、それを成し遂げる。しかし、その後の北伐中に、練の陰謀により叔父干儀を中心とした国内の造反が勃発、次第にその権力を失い失脚する。大将軍として軍を掌握するがその行動は著しく制限され、座王部に幽閉させられる。しかしその雙眼の奥には天下を狙う光があった。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり、大局の労を惜しまない。弾正の南征においても的確に正宗を補佐し、雷の猛攻より正宗を守り抜く。弾正の余命の短い事を予見し、又、羅候の動きに警戒するよう正宗に進言するが…

【趙晋】ちょうふ

智の譜代の武将。長く正宗の許で戦ってきたが、正宗の病状悪化に動揺し、一部の家臣と共に謀反を考えるが扶華の説得に翻意する。正宗より軍権を託され雷と対決するが、師真の策に翻弄され敢えなく破れ去り、趙晋本人も項武に斬られる。

【扶華】ふか

智王虎丸の典医。正宗の病状を案じた智王により大帝山に派遣されその余命幾ばくも無いことを正宗に告げる。趙晋など一部の将兵が動揺したおりには賢明な説得によりその離反を防いだ。

【虎丸】とらまる

正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候と共に雷に帰順、南景楼軍の謀臣として活躍する。

【羅候】らこう

練国国主。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、南蛮王国王女、邑暎を嫁取り、その地盤を強固な物にする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝関を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。南蛮王の死去後、その王位を継ぎ、練・南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。雷の偽帝討伐戦に於いては中立を宣言、だが、その野心に満ちた瞳は銀河中央を睨んでいる。

【姜子昌】きょうしょう

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力の修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕ともいわれる参軍校尉である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。戦功だけでなく、南蛮や正宗の元への使者として、首尾良く務めを果たすところも、彼の非凡な才能を示している。

【夏候才】かこうさい

羅候配下の有力な武将。南蛮の重臣、夏候猷の息子である。羅候が南蛮の王位に就いた時兄の夏候才と共に反対し、クーデターを試みるが失敗、羅候の前に引き出されるが、その

人物の器量の大きさに感じ入り、その後羅候の陣営に加わる。夏候一族は昔からその勇猛さで知られている。

邑峻 ゆうしゅん

南蛮王琥珀鳳淵の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理の七色餃子のてんこ盛りで宮殿内を餃子だらけにしてしまった。とにかく羅候が好きで好きでたまらない若奥様である。

神楽 かぐら

練国武将。邑峻の遠縁の血筋で白象を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。他の南蛮人に見られるように相当に気性が激しくプライドも高い。女将を軽く見る姜子昌とは何かと対立するが彼にはほのかな恋心を抱く。今後の展開は？

玄偉 げんい

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸延の知るところとなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と西羌王秦嶌の許に身を寄せる。やがて、彼を抱き込み戦局の最終段階に於いて参戦し、斉王都の戦いでは雷を出し抜き、幻術を操り偽帝骸羅を倒す。その後も一勢力を維持し、新政府の中で雷と対立する。

華玉 かぎょく

玄偉の腹心。李張道師の高弟で、その秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため暗躍する。骸羅の反乱の混乱時に玄偉と共に消息不明となるが、雷と骸羅の対決を前に現れ、策謀を巡らす。斉王都では師真と功を争うが、すべての所で破れる。

秦宮括 しんていかつ

西羌王秦嶌の息子。西羌一の豪傑である。父親に近づいた玄偉を嫌い、かえってその怒りに触れ謹慎させられる。秦嶌が雷に倒されたのを知り、叔父秦起と供に五丈に復讐戦を挑む。迎え討った項武の軍と激戦を繰り広げ、強者ぶりを発揮する。

五丈と西羌の
和議が進む中
羅候は父・羅鎮の
葬儀をすませ
使者である
三衆斎の送別の宴を
張っていた
思いがけず
父親の首級を
取りもどした
羅候は上機嫌で
あった
はっはっ
はっはっ!!

どうだ 三楽斎！ 我が妻の踊りは!?
ははーっ 真にお美しい！ まさに恐悦至極の心持ちてございます
華麗でかつ情熱的！
全銀河を見渡してみてもこれほどの舞は拝めますまい
いやそれがし幸せ者でございます！
よせよせ世辞は妻がつけ上がるわ！
お調子者だからな！
とっ…!!
あーらごめんあそばせ！
ゆ……
ゆゆゆ
呂峻!!

その時
殿！
姜子昌様より
智の反乱
鎮圧の報告で
ございます
首謀者の首も
届いております
何いっ!!
ふん！
我が練に
たてつくから
不様な顔を
さらすことに
なる！

小僧たらしい
ネズミ共が…!!
十分
時間稼ぎに
なったな…
……
……ったく
殿の恩情を
アダで返し
おって!
思い上がりも
はなはだしい
わ!
……で
こやつらの
後ろには
正宗が
いたのか!!
はっ
そ
それが
姜子昌様の
申すところでは…
正宗の
策動はなく
…
五丈の…
ドカ!!

けっ〃
殿…
そ それて
反乱に加担した
住民の処置に
ついてニル太を
決まっておろう〃
男は皆穴埋め!
女子供は
南蛮に奴隷と
して売っ払え〃

目障りだ！
その首は
焼き捨てろ!!
はっ
はは～
皆の者！
よく聞けいっ!!

事は
力が決する!!
無敵の我が
軍団の力を
全銀河に
示すのだ!!
全銀河統一こそ
我が父への
最高の供養と
なろうぞ!!!
酒だ!!
前祝いだ!!

ちゃちゃちゃ
三楽斎よ
ドン
おぬし竜我に
雇用されとるが
以前はコロコロと
主人を代えた
そうだな
ハハハハ!!
この
羅候様がな!!
正宗も
竜我も
討ち取って
くれるわ!!

そういうのを
忠臣と
言えるかのう？
うん
どうじゃ？
それに聞しては
そう思われても
いたしかた
ありませんな
へっ
よくわかってる
じゃねーか
ならその
忠臣顔は
やめとけって！
ただ!!
……ただ
良寛は
稼む本を
選ぶとか…
それがし
不才のため
それにちと
時間がかかった
だけのことてす
そして
選んだのが
竜我か！
三楽斎
貴様 頭は
切れるが
目の方は
さっぱりの
ようだな
どうだ？
天下の参謀と
なりたければ
俺に仕えんか？

おぬしなら
万戸侯で
取り立てるぞ！
それがしが
綾に仕えぬのは
綾の諸将が
五丈に仕えぬのと
同じ理由で
ございます
臣は
覇者に
好んで
仕えるもの
つまりは
竜我も
覇者だと
言うのか？
無礼者！ 何を
たわけたことを!!
我が殿は
貴様のかしずく
竜我とは
格が違うわ!!
奴は兵卒上がりの
成り上がり者じゃ
!!
ナニまらっしゃ!!!!

各々方！
耳の穴かっぽじって
よく聞きなされ!!
覇者は
天命を授かりし
者！
それは天のみが
知ること
我々臣下が
とやかく言う
ことではないわ！
君たる者が
徳を積み
我ら臣下が
忠節を
尽くして
初めて
天命はいずれかに
帰すものですぞ!!
……
……
ハハハハハ!!

見事な
答えだ
三楽斎よ
そちの
誠実さ
主君を
尊めぬ態度
大いに
感しいったぞ！
俺の宝剣だ
おぬしに
くれてやる！
はは－っ〃
ありがたき
幸せ！

罠哉
行くぞ！
奥で
飲み直しだ

待っていたぞ
羅候…
!!
この時をずっとな…!

竜我雷!!
あの時の
決着
まだついて
なかったな
ふふふ
その通りだ…

この日をどれほど夢見たことかっ!!
ようやく俺の前に現れたな!!
勝負!!

ドドド

な…何だ
ゆ……夢……
ら…羅候!!

何よ
びっくり
するじゃない!!
いきなり
大声て!!
……
……っとに
いい大人が
夢見たくらいて
大声あげない
てよ
うるせーっ!!
ちっ
昨晩
深酒
しちまった
からな…
しかし
何て奴か
俺の夢に
出てきやが
んだ…!?
ドカドカドカ
ふーー…

しかも
夢ん中とはいえ
まだ勝負が
つかねえとは…
クソ
おもしろくねえっ!!
ガルルッ
誰か!!
国境から
大至急
姜子昌を
呼びもとせ!!

それから
H後
殿
至急の
呼び出し
何事で
ございましょう
おおっ
ご苦労だったな
人払いだ!!
いったい
どうなされ
ました?
う…うむ
実はだな…

竜我が
親父の首級を
送ってきた
ことに対して
答礼の使者を
出さねば
ならん
それでだな…
駄目です！
な……
ま……まだ
一言も
言ってねえのに
ダメだとは
何だ——っ!!
その使者に
まぎれて
五丈に参る
おつもりですな！
な…何で
それを…!!
ぎく。
殿はすぐ
お顔に
出ます
ので…
え？
え？

バカなことは
お考えなされ
ますな
竜我との
勝負は戦場で
つければ
よろしいじゃ
ないですか
そ そんなことしに
行くんじゃねえ!!
それなら
なぜ
五丈に
忍びこむの
ですか?
奴を:
竜我という
男を知りたい
からだ!!
六年前の
五丈の南征のおり
一先鋒の将に
すぎなかった奴が
どんな男に
なったか…
なれば
密偵よりの
報告書を
お読みくだされ
たまって
おりますぞ
そんなもんじゃ
駄目だ!!
この目で
この耳で
じかにあの男を
見定めたい!

とにかく
臣下として
主君を敵中に
送りこむような
真似は
できません!!
お考え
直しを!!
大丈夫だ!
チラッと
見てくるだけだろ!
心配することは
ねえんだよ!!
しかし
どうして突然
そのような
ことを
申されるの
ですか?
わからん…!!
ただ…
ただ…?
奴が
竜我が
俺の相手に
ふさわしいか
どうか…
それが
知りたい…

…というわけで手配を頼む！
殿～～～…!!
幼なじみで大親友のおまえならわかってくれるよな！
な!!
……
誰がわかるかバカヤローっ!!
何百万の敵の中に数十名で乗りこむんだぞ正気の沙汰とは思えん!!
バカとは何だバカとは!!
んなことで怖じ気づいてよく大都督が勤まるな!!
とにかく俺の目が黒いうちは絶対に行かさん!!!

ほ――
これが五丈い首都い斉王都かー
けっこう奇麗しゃんかよ
駄！
ん？

何度も
申し上げますが
軽挙妄動だけは
お慎み
ください〃
うるせえな！
益州都を出て
このかた
そればっかりじゃ
ねーか
オウムか
おまえは〃
何度でも
忠告するよう
姜子昌様より
言いつかって
おります〃
姜子昌の奴…！
人を子供扱い
してるのかよ！
それだけ
将軍は
殿の御身の
ことを
気遣って
らしゃるのです
将来
覇を競う敵国に
国主が単身で
乗りこむなど…
殿の
大胆さには
驚きを
通り越して
呆れて
しまいます！
だから
こうして
使者の供
として
一兵卒に
化けてるじゃ
ねーか

奴らに気取られないようこの秘密を知っているのは我々三人だけです
正使陪神殿にも供の兵にも知らせておりません
万が一正体がばれた時はこの踏庖一命を賜けて殿をお守りしますが…
くれぐれも慎重に！
ふん！自分の身ぐらい自分で守らぁっ!!
三楽斎には特にご注意を！奴は殿をよく知っています
あ――っもうわかったわかった！

ここにあいつがいる…！
竜我雷(リュウガライ)…！
貴様(きさま)という男(やつ)をたっぷり見(み)せてもらうぜ…!!

……
雷!
間もなく
棟よりの
答礼の使者が
参られると
三楽斎殿が…
そうか
支度
しなきゃあな
……

雷……
あー
悪い
悪い
いや
どんな奴が
来たのかと
思ってな
練で侍中を
やってる男と
武官が一人だ
献上品にも
女っ気なし
実に
つまらん！
五丈に探りを
入れるため
もうちっと
目端の効く者を
送ってくると
思ったがなー
あ
それから後で
西光との
同盟条約を
見てくれ
おまえの承認で
発行する
手はずだ

主なところは
五丈への鉱物の
優先的輸出と
兵員の提供
くらいだけとな
とにかく
マイナスが
プラスに変わった
わけで
我が五丈には
喜ばしい
ことだ
秦宮括は
俺を信して
くれたの
だろうか？
それは
お互い様
信しられない奴を
信しるのも
政治の世界では
常識さ
讒

ちらっ
練

ちっ
待たせやがんな…！
何してやかんだ…！
ムラムラ
ギクッ
ま……まずい…

いや
待たせたな
ご使者殿！
田舎者故
支度に
時間を食った
申し訳ない！
竜我帝

これは
これは
竜王様
ご尊顔を
拝謁たまわり
真に恐悦至極に
ございます
うむ
遠路はるばる
ご苦労だったな
あいヤロセン
えらそー
ふ…に
おいたから
ちったあ
小奇麗に
なったようだが…
昨今
斉王都近海は
天候が悪いが
道中いかが
だったかな

……において
我が主君
練王羅候様は
竜王様の
ご厚意に
深く感謝いたし
答礼の使者として
それがしを
遣わされました
また
暴君を排し
人民のために
国を興そうと
なされている
竜王様に対して
我が主君は
感嘆の念を持ち
これを評して
おりまする
けっ
別にてめえ
なんぞに
感謝は
してねーよ!
殿との
…
おとなしく
してて
くださいよ
九火の重臣の
一人の
その首
討ち落としても
かまわんが
どうして
くれよう…!

ミン
ただ
事
じゃ
ねぇ…
何だか
妙に重い
雰囲気
だせ…

殿…
ここは
まるで
戦場ですぞ…！

ギニギニ
ひ…ひえぇ
と…殿……
な…何をなさる
おつもりでござる
!!
……
ま…
まさか
こやつは…!?

それがし
閻王より
竜王への
特別な献上品を
持参して
まいった!!
ほお
特別な
献上品か
見たいか!!
もちろんだ
なら
城外に出ろ!
なれば
見せてやる!!
待ってるぞ!!

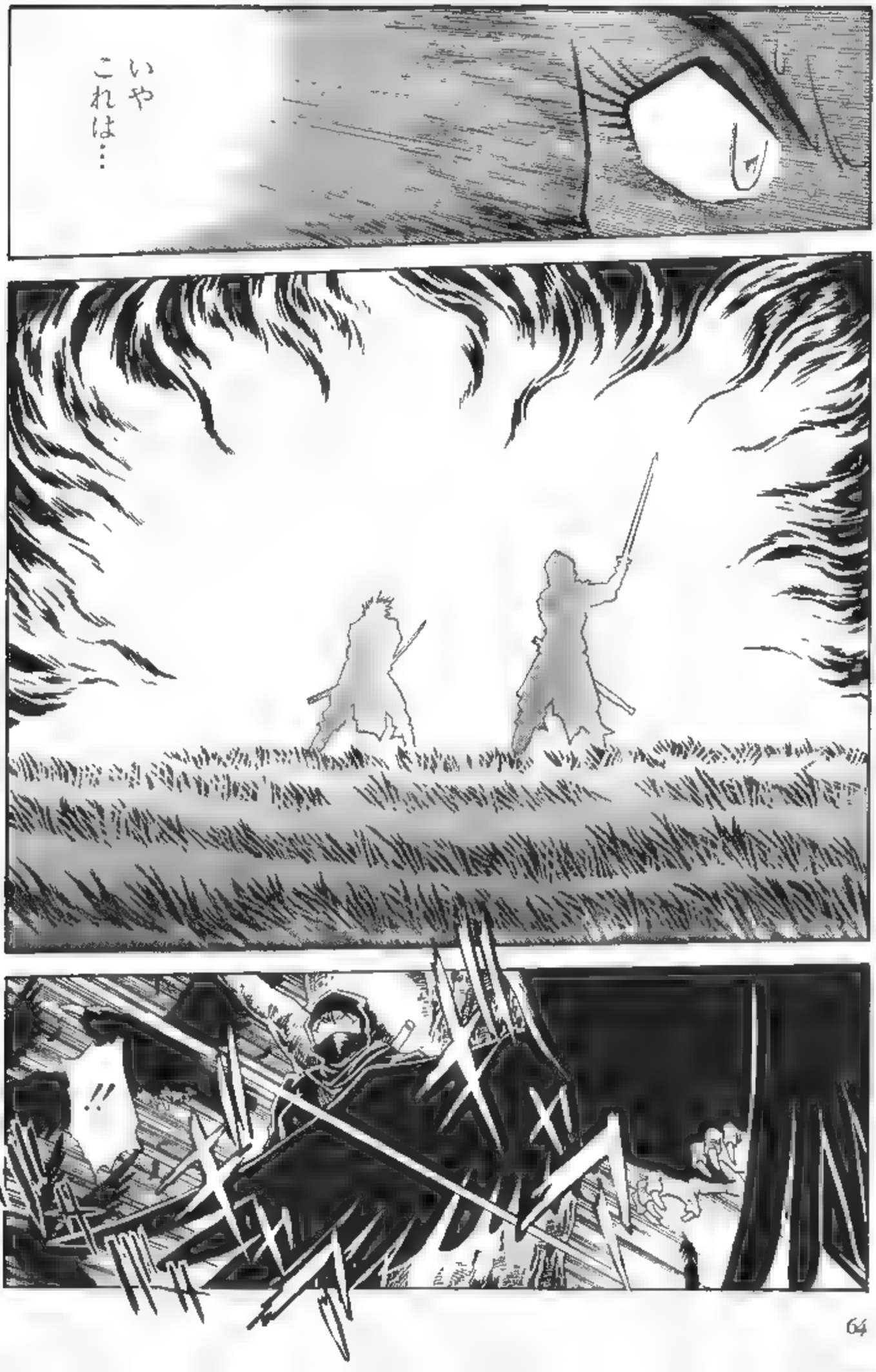
どけ――っ!!
お…おのれ
乱心者が…
追え――っ!!
殿中を騒がす
不届き者を
斬れ!!
騒ぐな!!!
皆
その場を
動くな!
追うこと
まかりならん!
り…竜王様!

あの男
紛れもなく
綵王禮…
三楽斎！
そなたを
使者の
接待役に
命じる
丁重に
もてなすが
よい
粗相のない
ようにな！
は？
しかし…
あの…
ご使者殿
俺は
しばらく席を
はずすが
ゆっくり
なさるがよい
はあ…
竜王！
あー宴が
のってきたら
我が丞相の
裸踊りが
見れよう！
竜王!!!

待てっ!!

へへへ
はあっ!!
追いついてみろっ!!
俺の馬を持っていっ!!
ははっ!!

練王は
こう申した
竜我は我と競う
覇の主か…
その身を
以て確かめて
こいとな!!
つーわけて
そのバケの皮
ひんむかせて
もらうぜ
おもしろい
趣向だな
練王好みの…


いや
これは…
!!

ギギギ
ギギギ
ギギギ
あの人…
よく一緒に
いるのが…
今も
父さんが…
ゴロゴロゴロ

妙な天気になりましたな
上々の空模様だったのに
雷鳴が鳴り響くとは…
……
孟閻殿は竜を見たことがあるか？
はあ？
いや残念なことに未だに…
竜はあの雷鳴の下にいる
ほお
二匹の竜…いや一匹は虎だな…
天と地を分ける聖獣があの下にいる！
ゴロゴロゴロ
これは驚きましたな
法と理論を何よりも尊ぶ丞相からそんな言葉を聞こうとは
ならさしづめ竜虎の対決というわけですかな

おかしいか？
あいや別に…ね
まあもっとも俺もあの男に出会うまでそんなこと思いもしなかったが…
俺たちには計り知れない輩がこの世に存在するということだ
そういう輩が生まれる時代かもしれんな

……
我が剣に
入り聞くに
休むすべなし
死ぬがよい
十九
!!

気を
失っている
くのいちか
ふん！
何たそりや
役立たずな
五丈の間者は
五丈のとは
限らんたろ

どうする気だ？
どうもしないさ 間者とはいえ女を斬る気はねえよ
ほー お優しいことて
キン
まあな
ところて俺の品定めはすんだのかお客人
ふ…
大まかなところはな
チャキ!!

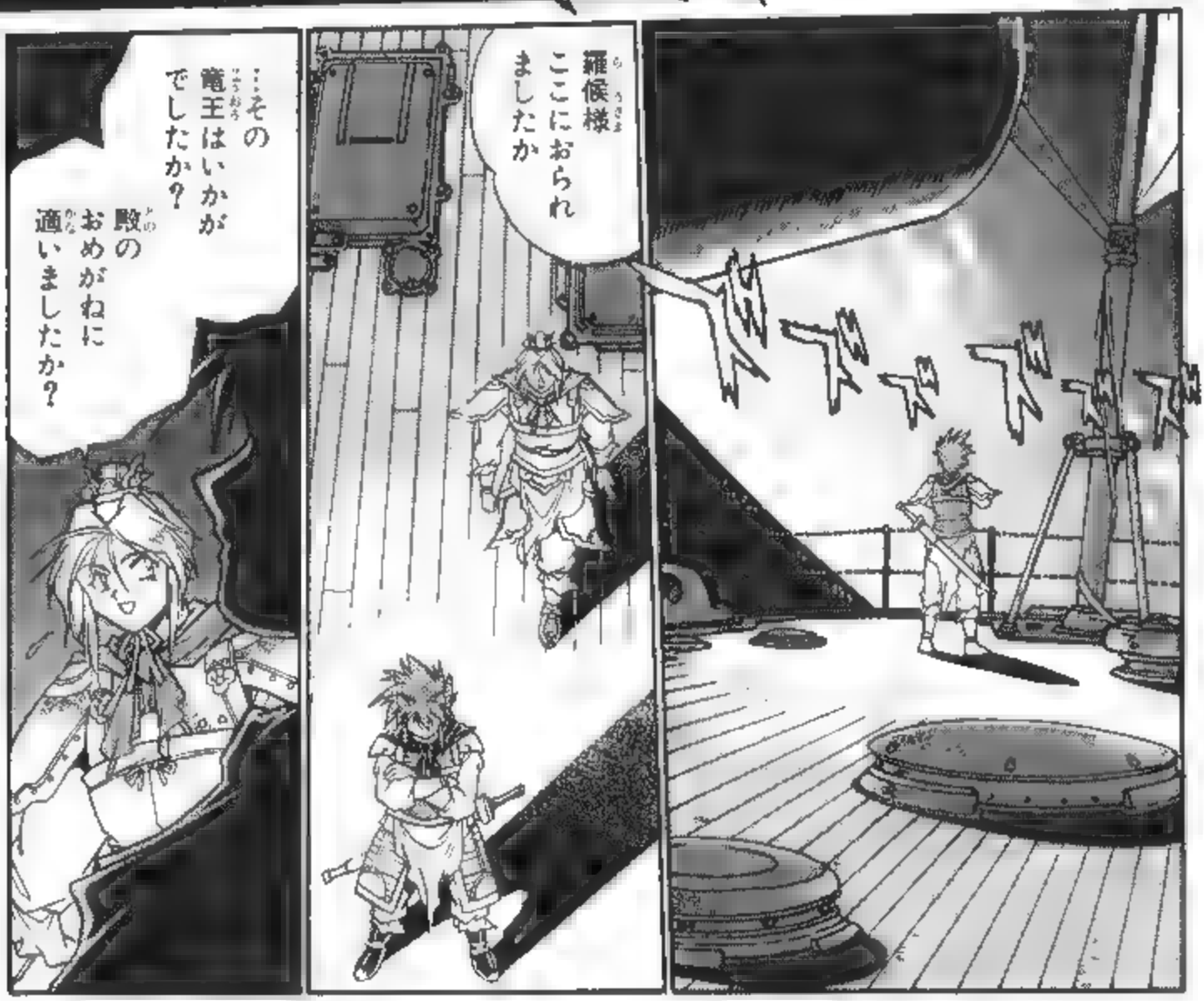
……
生きている…
袈裟がけで
真っ二つに
されたと
思ったのに…
この梨屑とも
あろうものが…
くそっ！

何だ
ここは
殺風景な
とこだな
ここは
数百年前
前の王朝
神聖銀河帝国の
開祖皇帝が
即位式を挙げた
拝将台だ
へー
今はこんな
荒れ地だけどよ
当時はすごかった
らしいぜ
旗が無数に
居並び
錦の長衣と
宝剣を帯びた
文武百官の
見守る中
初代皇帝は
即位したんだ
兵士と民が
地を埋め
万歳を唱したって
話だ
目を閉じると
そういう
情景が
浮かんで
こないか？

ふん
五丈の竜王も
案外
感傷的なんだな
くっだらねえ！
要は
すでに死んだ
王朝の
残骸だろ
そんな所から
何を得れる
何が見える
ってんだ
想像力の
乏しい奴だなー
うるせえ！
そっちこそ
女々しいぞ！
別に俺だって
感傷にひたるため
ここにお客人を
つれて来た
わけじゃあ
ねえよ
天下覇道を
目指す
俺たちが
旧王朝を
足の下に
踏みしめてる…
つまり
次の歴史は
俺達が
造るってことだ！
俺たち…

火花を散らし
鉄をも溶かし
何もかも焼き尽くす
ような熱い
歴史を…
そう…
だれにも
真似できないような
俺達だけの
歴史をな…!!
竜我…

おまえとなら
造れると
思っているぜ!
共にこの
戦国の世に
生まれた男だ!

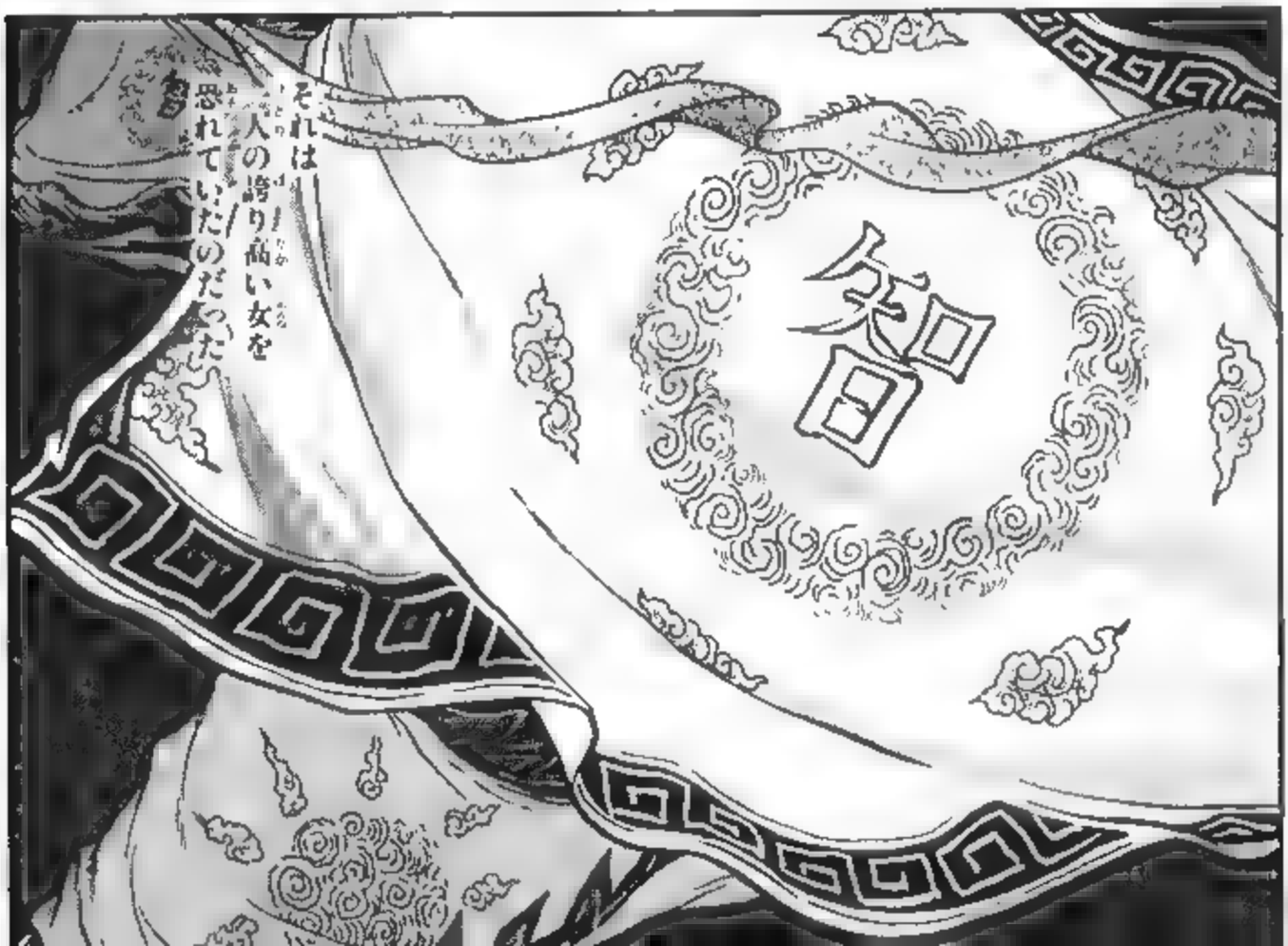

羅候様
ここにおられ
ましたか
…その
竜王はいかが
でしたか？
殿の
おめがねに
適いましたか？

今夜はいい夢が見れそうだ！

雷と稲妻、
介一郎でも一人の
ごく短い出会い
だがそれは
来るべき
銀河史上最大の戦いが
避け難いことを
示していた
五丈原西光連合と
南蛮連合の
一大強国の激突を前に
全銀河は鳴りをひそめ
息をうかがい
不気味なほどの
静寂が漲っていた

だが
天才的軍師
大覚屍師長を
擁する雷も

また
圧倒的な
軍事力を
誇る雄候も
うかつに
動けなかった


それは
一人の誇り高い女を
恐れていたのだった
智
知日

自領を練に
明け渡した正宗は
国境の外、夾の地の
名もない小さな屋に
仮宮殿を建て
智王を迎え

内には
智王の後見役として
朝政を司り

外には
戦備を整え
正に智の
柱石として
祖国奪還を
目指していた

だが
半年もたったか
その激務による
心身の疲労は
隠せなくなっていた…
港湾都市を？
…
ゴホ
ゴホ
大将軍！
正宗様！
今日の軍議は
ここまでに
いたしましょう
お休みに
なってください
いや…
少しせきこむ
だけだ
続けよ

は…ははっ
各軍団とも日夜違わぬ訓練で練度は上がっておりますがそれに比例して軍紀の疲労が増しています
容認できないほどにか
全艦艇の三割方は機関のオーバーホールが必要です
他にも砲身内筒部の交換船底のカキ殻の除去も必要ですが
とにかく機関が全力を発揮できなければ戦闘行動にも支障が出ましょう
そのような大がかりな整備は工作艦では手に余る…
それて大規模なドックを持つ港湾都市をか…
だがそんな所がどこにある?
姜子昌の奴国境沿いの港湾設備をすべて破壊しおった
そのことですが…

何？
五丈に…
はっ
ここ夷の地との
国境付近に…
調べましたところ
設備は僅在の
ようです
そこを占領しては
いかがでしょうか
恐らく
国境守備隊用だった
のでしょうが
五丈の再建のおり
経費削減のため
放棄したのでしょう
お待ちください
たとえ放棄された
とはいえそれは
れっきとした
五丈領土
五丈と事を
構える気
ですか!?
なれば
竜我に
頭を下げよと
言うのか
「使わせて
いただきたい」と！
我々の
目下の敵は
練です！
五丈まで敵に
回すのは
下策です！
……
!!

ゴボッ
ゴボッ
大将軍！
軍船の整備は一刻を争います
多少 五丈との関係は険悪化しますが決行すべきでございます
趙晋よこの件については少し考えさせてくれ
慎重を要する問題だ

本日の軍議はこれまで――
正宗様 少しはお休みになってください
人間の精力にはおのずと限界がございましょう
このままでは…
飛竜 それはわかっているよ

だが
占領下の領民
そして智王の
行く末を思うと
おちおち寝てもおれんのだ
これを飲んで
みるといい
異の先住民の
酒だ
はあ
げほっ!!
な…何ですか
これは…
酒だか
薬だか…
一時的に
眠りや疲れが
取れる
まあ興奮剤の
ようなものかな
正宗様
こんな物を
常用なさっては
なりません!
お願いですから
お身体を
大切に!!
ははは
おまえにまで心配を
かけたようだな
いや…
少し無理が
あるのかも
しれん…

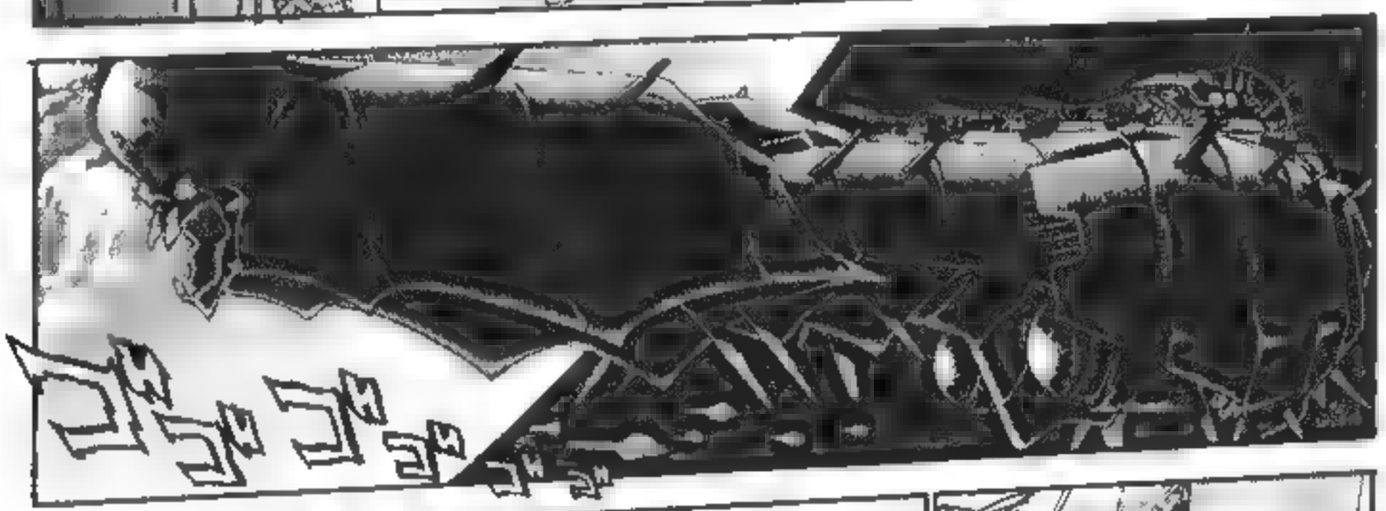
姉上
少し
お痩せに
なりましたね
お身体の
調子が良くないと
伺いました
国政も大事ですが
くれぐれも
無理なさらないで
ください
ははは
さては
心配性の
飛竜あたりが
奏上しましたか
ご安心くだされ
この正宗
女ではございますが
体力においては
並の男には負けは
いたしませぬ
ははは…
ですが
姉上…

陛下が
智の国を
思う気持ちは
よくわかります
ですが今は
五丈と練か
にらみ合い
一時的とはいえ
銀河は安定
しています
他の重臣とも
話し合いましたか
今は
求めて敵を
作るより…
座して時を
待つべきては
ございませぬか
陛下…！
陛下には
この銀河の
静けさが
来たるべき
大会戦の
前兆とは
思いませぬか
う…
お情けなや
陛下…
今は
五丈も練も
すきあらば
天下を握らんと
望む
戦国の世で
ございますぞ！

座して
滅ぶより
出でて
活路を求めん
戦国の世に
ただ手を
こまねいて
待つは滅亡
あるのみで
ございます
い…いえ
私は
ただ…
陛下！
時は
自ら出でて
つかむもので
ございますぞ！
では
私は
軍務が
あるので
これで…
あ…
姉上！
怒られたので
ございますか？
……
いいえ…

では
明日の夜
共に
食事を
いいですな
お招きを
お受けします
……
扶華！
はっ
どうで
あった
姉上の様子は
はあ
やはりかなり
お疲れのようで
ございますな
お顔の生気が
感じられませぬ
お声も張りが
ありませぬし…

とにかく
これから
正宗様の許に
参り
診察いたします
うむ
頼む
姉上に
もしもの事が
あったなら
智の一大事じゃ


ゴゴゴゴゴ

それで
おぬしが
参ったと
いうわけか
はっ 陛下の
ご心配の種を
取り除くのも
典医の仕事で
ございますので…

お脈を拝見…
いかがでござる…？
！
典医殿…!!
……

いや これは 大したことは ございません！
まっ 少々お疲れが たまったようで ございますな！
……
ところで 典医殿は なんでも 古今東西の 仙薬に お詳しいとか
ひとつ この私に 長寿の仙薬の 作り方を お教え願え ないか
ようございますが… それは 我が一族の 秘伝中の秘伝… できれば 大将軍お一人に
ならば 我々は失礼 いたします

典医殿…
私は
いつまで
生きられる…

包み隠さず
お答えいたします…
うむ…
最悪の場合
三月…
長くとも
一年と
お見受け
いたします…
そうか…
このこと
陛下に
決して
申されるな!
し…しかし…
約束して
くだされ
てないと
おぬしを
斬らねば
ならん…!

わかりました…
國家のためと
正宗様が
申されるのなら…
この扶華
喜んで陛下を
欺きましょう…！
かたじけない…
うおおお――っ!!

次の北伐には必ずや丁柄を立てて差し上げ様に認めてもらわなければ…
神楽ー！
邑姫様！
ドドドドドド
……

もー
不器用ねー
神楽って！
そんなこと
おっしゃられても…
しかし
餃子を作るのと
姜子昌様と
何の関係が
あるんですかぁ？
大アリ!!
古来南蛮の女は
好いた男に
餃子を作って
贈るのが
習わしてしょ♡
羅候なんか
あたしの七色餃子に
コロリだったのよ
ほんと♡♡
そんなに
好いた好いたって
おっしゃらないで
くださいよ～～～
何だか恥ずかしい
ですよ～～～
そうか
正宗が
ついに軍を
動かしたか…
はっ
各軍団が
集結し
出師準備に
取りかかって
います

大都督の
申されるように
五丈に向かい
ましょうか
うむ
必ずな！
独眼竜が
エサに飛びついた
のだ！
奴らが臭港を
欲しがるのは
当然の理だからな
これで
智と五丈が
正面衝突ですね
両虎争食…
狩人は手間が
省けます
我々の
出陣の用意は
できておるな！
はっ！
全軍いつでも
出陣できます！
よし！
では羅候様に
上奏し
出陣の命を
仰ごう
姜子昌様!!!

神楽殿…!?
ごめん!!
貴様あっ
何を…!!
きゃっ!!
こ…これを…〃
お…お召し上がりください〃
お…おいっ!

ドン!!
……
うわー
何!
出師の表
だと
はっ
今朝ほど
大将軍より
届きまして
ございます
大将軍は
すでに出陣
いたしました
早く
見せよ!

陛下におかれましては
決して大望を
お捨てなきよう…

父ーと
我が姉君
代に渡る
大業を引き継き
ゆめゆめ捨てずに
大成なされませ

ゴホッゴホッ

そして
花も実もある
大丁人に
なっていただきたい

陛下にも
よろしく自課し
もって普通を咨詢し
雅言を深納し
深く先王の
遺詔を追うべし…

今、遠くに
離るるにあたり…
表に臨みて涕泣し
云うところを知らず…

やはり…
やはり
ご病気
だったんだ…
そんな身体を
おして
私と智の国の
ために殉じようと
なさっている…
……
ならん
それはならんぞ!!
誰か姉上を
呼び戻すのだ!
船を
用意しろ!!
陛下!
陛下!!
姉上!!

五丈の港湾都市
開彰は
あの辺りでは
唯一の五丈の拠点だ
周りの海域は
慌れ
天候も不順
守るには適した
場所だ

五丈が
我々の行動に
気づいても
線に備える以上
派遣する軍は
西羌との戦いの
ように二・三個
軍団だろう

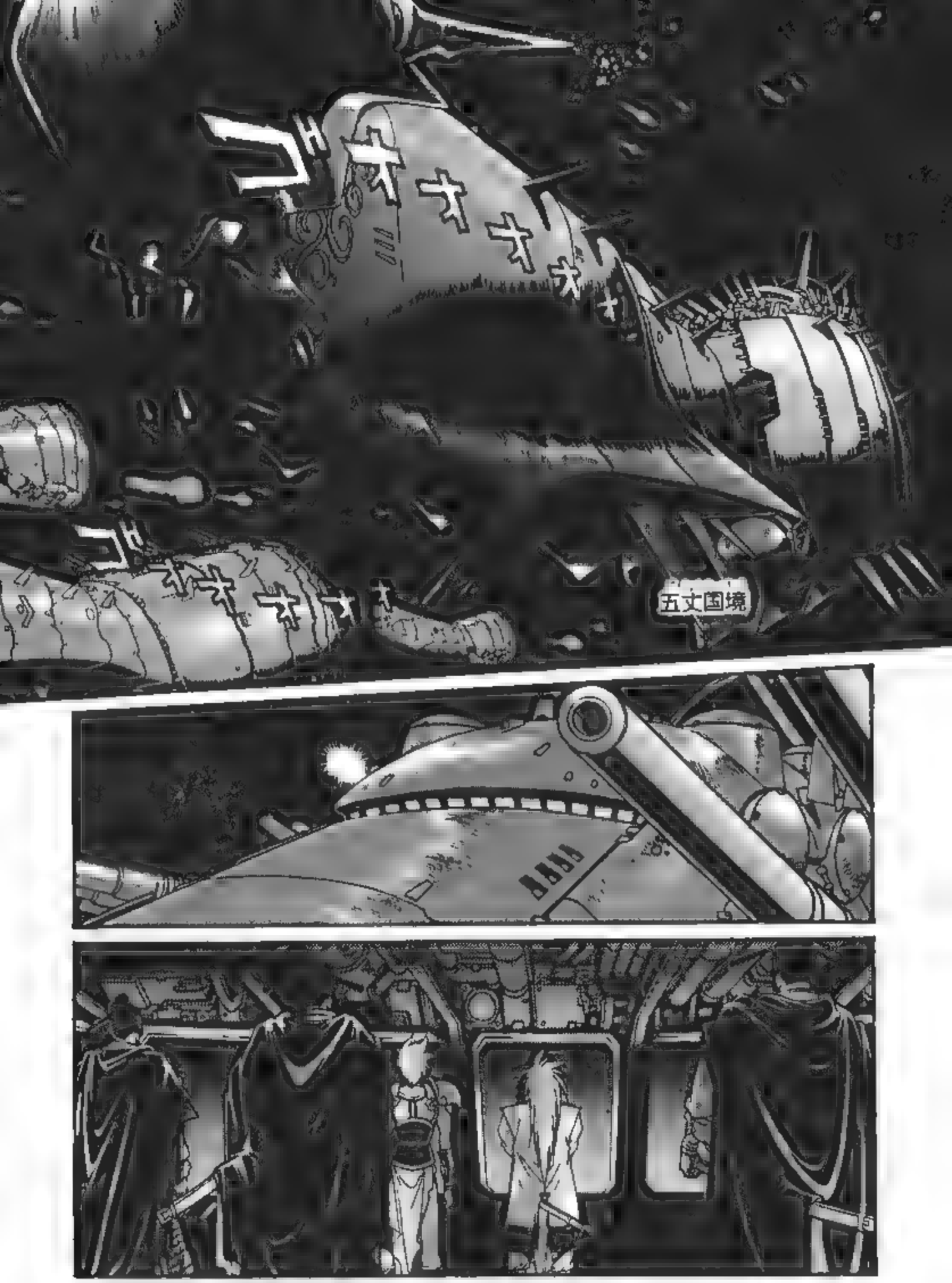
ドック入りの
軍団を省いても
その程度の
数なら問題なく
勝てる
数度の
勝利を得れば
五丈とて
兵力の消耗を
避けよう
恐らく
我々の占領を
既成事実として
黙認せざるをえまい

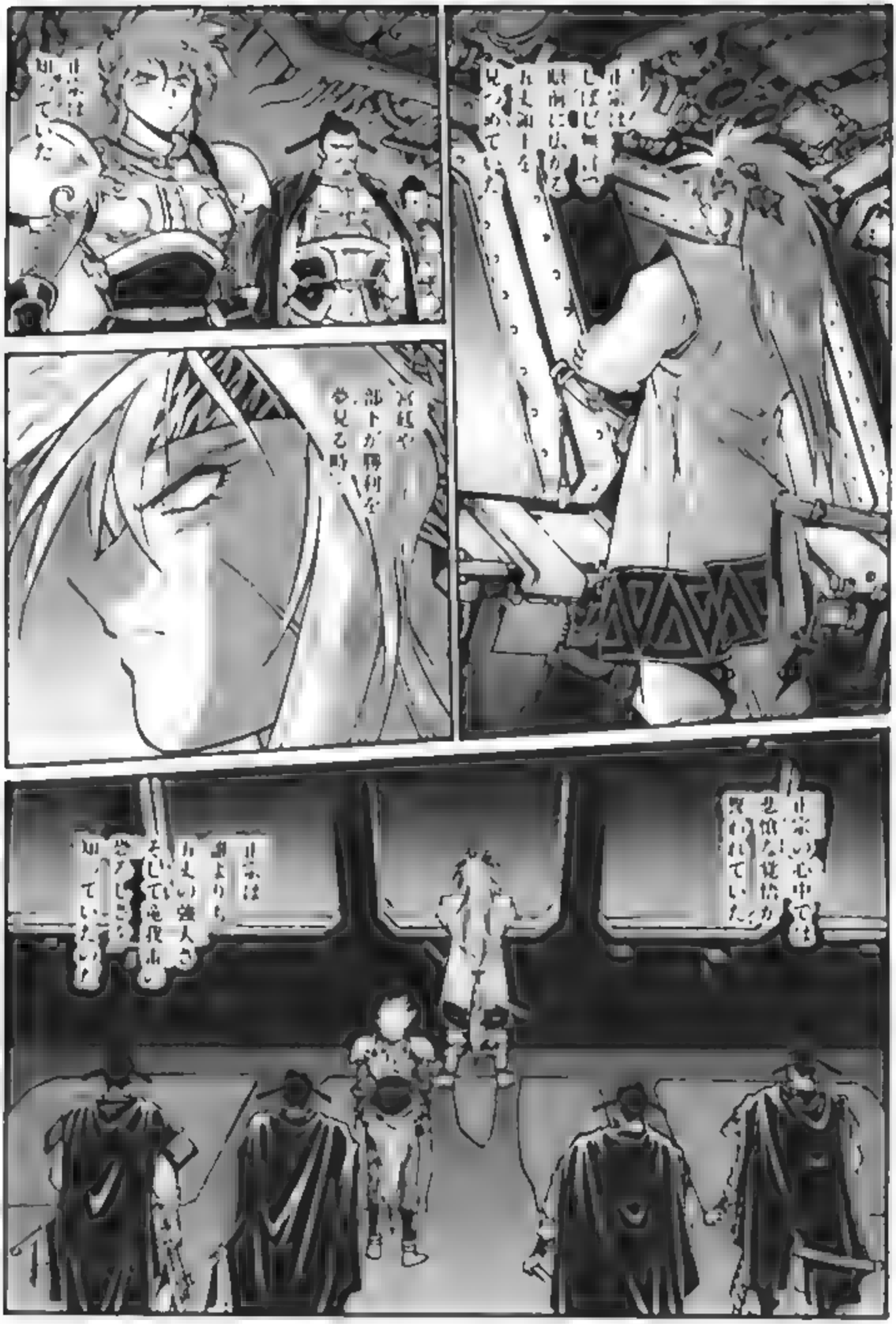
なるほど…
それこそ
五丈の弱み…
さすが
正宗様
敵の軍師
大覚屋師真は
知謀に長けている
との評判だが…
戦場での
駆け引きなら
この私も
負けはせぬ
全軍
第二種進撃
速度に!!
三日後に
五丈国境へ
集結せよ!!
ははあっ!!

ご薬膳を…
すまんな 典医殿 無理に同行を願って…
おかげで 近頃は 気分もよい
ご安静になさっておられるからでしょう
今 部下の前で倒れるわけにはいかんからな 士気にも影響する
なんと 恐れな 者に 人なし
智・仁・勇は 軍事も政務も すべて上一様が 許容 こ らっしゃる…
その大きさ 故に 自ら死に急ぐ ことになろうとは…

[illegible]
なに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

それに
つられるように
天空の星々が
明滅している
天文の
奇異です…
銀河全体に
戦雲が
満ちてきた…
今まで
我々が経験
したことが
ない規模の…


五丈国境


しばし無言で
戦況に見入る
五丈原を
見つめていた
冥府や
部下が勝利を
称え乞い
五丈原は
知っていた
五丈原の心中では
悲愴な覚悟が
渦巻いていた
五丈原は
誰よりも
五丈原の強大さ
そしてその危険さ
恐ろしさを
知っていたから

座して滅ぶより
出でて活路を
求めん…
たとえ相手が
五丈だろうが
練であろうが
我々は勝つ!!
智
そして
自分の
死んだ後
智を守るべき
人材が
いないことも…
正宗の
右手が高々と
振りかざされた!
全軍
前へ!!

こうして
ついに正宗は
孔丈との対決を
覚悟の上で
国境を突破し
孔丈領内に
なだれ込んだ

生きて
帰ることは
出来ない
決死の作戦
だったのである

智軍
五史国境を
超える……！

この凶報に雷が
接したのは
旧臣・装民の
隠居屋敷であった

造船総監として
主に技術畑で
雷を支えた
装民であったが
寄る年波には
勝てず
病に伏せっていた

このような
みすぼらしい
東屋に
陛下自ら
参られるとは
恐縮です……

いやな
立派に
なられましたな
あ……

大五丈の
盟主として
相応しい
お姿で
ございます

病は
どうだ
まだ寝込む
年じゃ
ないだろ？
お言葉
かたじけない!!
いや しかし
船のことなら
ともかく
自分の身体と
なると
さっぱり
わかりませんわ
早く
元気に
なってくれ!
金剛も
オーバーホールを
待ってるぞ
陛下
いよいよ 智・緑との
天下取りを
かけての
決戦で
ございますな
ああ……
緑の
巨大戦艦
「帝虎」級の
事は
耳に入って
おります
さすがに
船に関しては
耳が早いな
ま……
でかいだけの
代物だ
気には
してねえよ
いやいや
陛下……
それは
違いますぞ

練のだれが
設計したのか
知りませんが
まれにみる
堅艦でございます
恐らく
我が方の火砲では
その舷側装甲を
撃ち破れますまい
その通りだ
頭の痛いところでな……
とうだ
船い専門家として
何か
いい手はないか
陛下それがし
ずいぶん昔に
弾正公に直々に
召し出され
一門の巨砲を
造ったことが
ございます
巨砲？
とこに
あるんだ？
五丈と南天との
国境沿いの
永久砲台に……
恐らく今も
南天の主要航路を
睨んだまま
沈黙していましょう

裴伯！
あれを……！
はい
父上
せがれの
裴伯です
わしの代わりに
図面をかかせました
ぜひ ごらんに
なって頂きたい
いかがですな
軍師殿……
……
おもしろい
決戦兵器として
有効的に
使えるだろう
裴伯殿
お主を
この計画の
責任者に
任命する
裴民殿の
ご子息だ
間違い
なかろう
あ……わ……
わたくしに……
光栄で
ございます!!

竜王様
城より急使が
参っております
なに？
失礼を
陛下！
正宗が
五丈に侵入しました！
!!
いつのことだ!?
十日ほど前に……
開彭を占領し
居座っております！
師真！
うむ！
装民！
悪いが
急いで城に
戻らねば
ならん……
達者でな！
陛下こそ
お身体を
大切に……

ドドドド
裴伯よ……
その図面 国家の大事ぞ！
慎重にかつ大胆にな！
はい おまかせください！
ふう……
これで肩の荷が降りたわい……
わしはこの年になっていい主君に巡り会えた……
幸せもんじゃよ……
それから一ヶ月後……
裴民は静かに息を引き取った……
享年七十七才……

五丈王宮内に
緊張が
走った!!
弾正公による
南征の惨々たる
失敗
南天連合軍による
北伐(羅候の離反に
より頓挫
南天が一つに
まとめあげた
智の蜘蛛の恐ろしさは
上は王侯から
下は一兵卒まで
骨の髄まで
染み渡っていたのだ
その王宗が
ついに五丈領内に
攻めこんで
きたのだ!!

しかも――
更なる
追い打ちが
別の国境より
届いた
羅
楔
練南蛮連合が
兵を起こし
国境に集結
進撃を開始したと
いう
内に正宗
外に羅候
五丈は
未曾有の
危機に陥った！
状況は
今話した通りだ
次に
我々の作戦を
説明する！

我々は
まず
全力を
挙げて正宗を
叩く！
お言葉ですが
なれば練は
どういたします!?
練は智の
十倍の戦力ですぞ
放って
おかれるのですか!?
羅候は自分の
兵力に自信を
持っている
よって急襲など
してこない
全軍
一同にそろえての
堂々たる進撃を
夢見よう
したがって
歩みは
遅い!!
正宗を
討ち取った後
返す刀で
羅候を討つのだ！
正宗を……!?

あの正宗を……
あの独眼竜がそう簡単に討ち取れるのか……
陛下！五丈と智との長い抗争……そろそろ決着をつける時が来ました
!!
天文を見ましたところ正宗の主星・将星ともに輝きが増しておりますが運気が今一つ足りませぬ
これは正宗の身に何かが起こっているに違いない
今を逃してはなりません！
あの女傑を倒すのは今しかないのです！
あの正宗と決着か……

瞬
蘇る脳裏に
今までの
日本との戦いの
思い出が
溢れかえった……
そして砂団長として
日本の指揮に
単騎駆けを挑んだ
あの戦い……
血のない地で
あった日本の戦いは
常に日本との
戦いだったのだ

あの頃の
正宗は
雷にとって
敵ながら
まさに雲の上の
人間であった
この女を
倒さないと
自分の大下は
ない……!!
だが今
幾年を経て
同格の覇者として
二人の間に
決着をつける……
そう思って
雷は全身に
兵卒時代と同じ様に
血が激るのを
感じていた……!
公叔!
はっ
そちは
急ぎ西羌に
参れ!
秦宮括に
事態を知らせるのだ
だが決して
軍を国境の外に
出さぬよう
悟すのだ
西羌軍に援軍を
頼まないので
ございますか

今 西羌と
練が戦って
勝てる保証はない！
もし負けたら
秦宮括はともかく
西羌兵は
練に寝返る
やもしれん
戦火をやみくもに
拡げるわけには
いかんのだ
練には
我々の予定通り
進軍してもらわなくては
はな
はい
ではただちに
出達します
三楽斎！
国内の全権を
まかす
兵糧・弾薬の
補給を
よろしくな
はっ
おまかせ
ください
それと
個人的な
話がある……
後で別室に……
!?
林！
如晦！
はいっ
はっ!!

二人は
この斉王都に
残って対帝虎用の
五つの策の
完成を急いでくれ！
ははっ!!
帝虎用の
五つの策？
はっ
帝虎は練軍の
象徴！
これを無力化するのが
勝利への
近道でございます
おまかせを……
諸将よ！
諸君らの
武勇 忠義は
わたしも
よく存じている
だが
この軍中に
我が秘策を
託す人物が
いるかどうか……

なんと!?
それは聞き捨てならん!!
我らが命を惜しむと思われてか!!
おいおい丞相様そりゃねーぜ!!
軍中に人無しとは納得いかん!!
諸将のお心わかり申した
我が計は成ったも同然!
丞相!!
何も申されますな!
その役目このわしが引き受けましょう!!
親父!!

そちには
死んでもらう
ことになるぞ
……
はっ
見事
練の前に
立ち塞がる
壁となりましょうぞ！
では
一将に練軍を
防げと……!!
その通りだ
歩みは遅いとはいえ
手をこまねいて
見ているわけには
いかん！
我々が
取って返すまで
練軍を地の利の
有利なところに
引き摺りこみ
そこで足踏み
させる役だ！
おいおいおいっ！
そーいうのなら
俺に任せてくれ!!
秦宮括を
押し留めた
この武勇
忘れたわけじゃ
ねーだろ!!
バカ者!!

お前なら
いつでも
手柄を
立てられ
ようが！
この老骨に
鞭打っての
最後の槍働きの場を
奪うではない！
この親不孝者!!
項武!!
けどよう……!!
わしは
この任を務めれば
"勇"を誉って
敵を倒し
刺し違えるのみ！

おまえは
必ず
わしの仇を
討て!!
よいな!!
親父……

バカが
でっかい図体して
泣く奴がおるか
情けない!!
皆の衆……
こんなせがれじゃが
よろしく
頼みますぞ
項羽
それでは
項梁殿……
はっ
ではただちに
出陣いたします!!
待て!
……
陛下
それがしでは
ご不満で
ござるか
……?

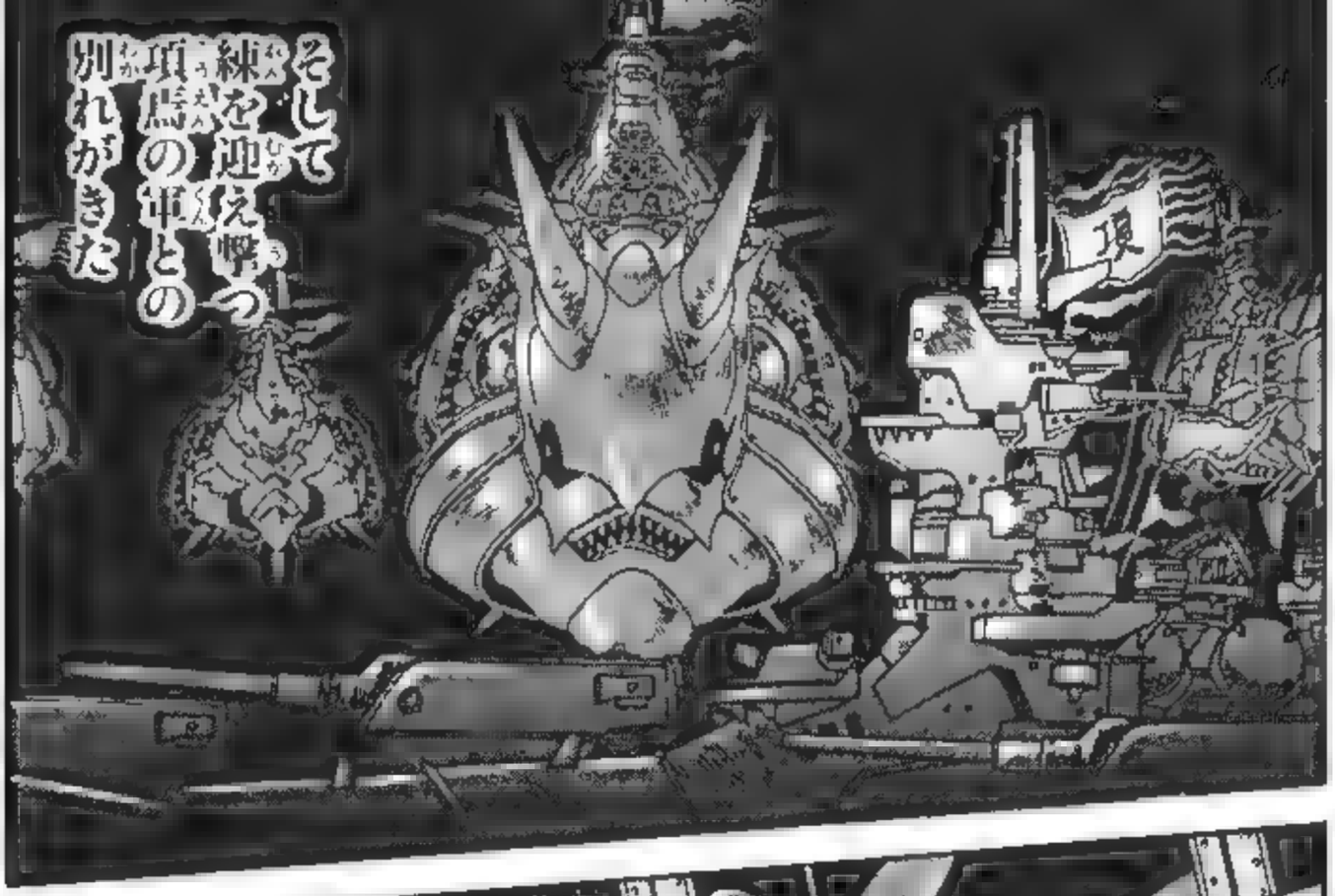
いや
そうじゃないが
……
なあ
師真……
率いるのが
一個軍団では
少なすぎる
なんとか
他の軍団からも
工面して
やれないか？
ハハハ
それがしは
そうは思いませぬ
船を枕に
討ち死にの覚悟！
無用な兵は
いりませぬ！
陛下！
未練で
ございますぞ！
家来に死ねと
言うのが
主君の務めでは
ござらぬか……
いよいよ
今生の別れで
ございます！
竜王陛下
万歳!!

いい部下を
持てたことを
誇りに思う……
達者でな……

はは
――っ!!

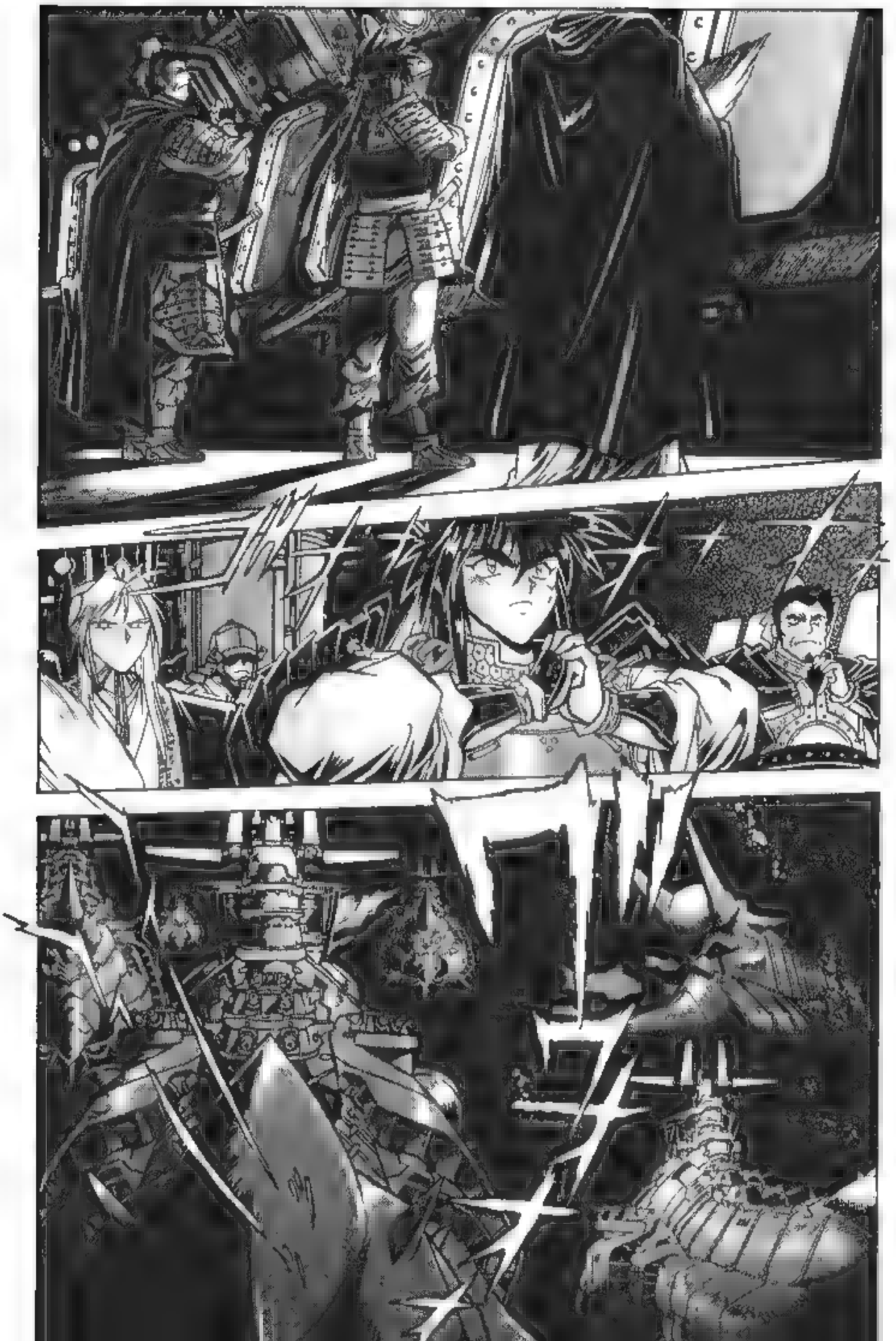
三条斎
我々が警戒
しなければ
ならない
敵がもう一人いる
玄偉……
ですな
ご名答！
あの男は乱を
好む……
必ずや姿を
現す!!
とはいえ……
奴にどう対処
すべきかは
俺にも
わからん
そこでだ……
ゴニョ
ゴニョ
ふん
ふん……
わかりました
とにかく
口説いて
みましょう
いや大丈夫です
竜王様には
好意を持って
おられましたし
……
頼むぞ！

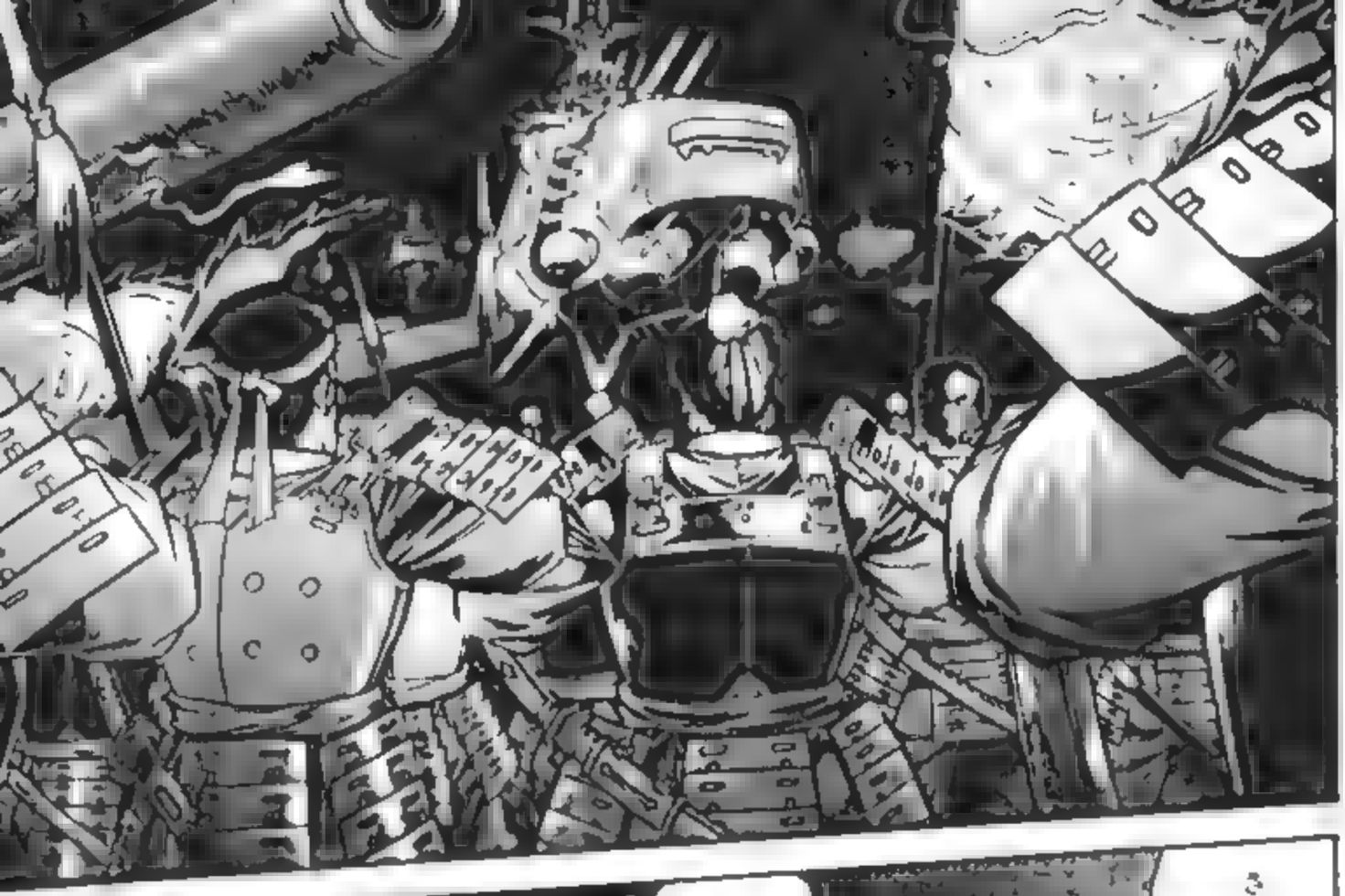
こうして
雷は
斉王都近海に
全軍を集結させ
一路
正宗の占領している
開影に向かった


そして
練を迎え撃つ
項馬の軍との
別れがきた
項

おいっ
今
聞いたけどよ!
項馬様の軍だけ
別れて進撃と
戦うらしいぜ!!
なんだと!!

バカ言うな
練ていやぁ
五丈の十倍もの
大軍だぜ
一個軍団で
どうする気だぁ!!
犬死にだ!!
ムチャだ!
やめさせよう!!
いや!
俺達は
項羽様の
元部下だぜ!!
親父様が
犬死にするのを
だまって
見てられるか!!
大将に
かけあって
俺達も援軍に
行くんだ!!
そうだ!
そうだ!!
大将!!
船を
止めろ――っ!!
項武様!!
どこてす!?
!!



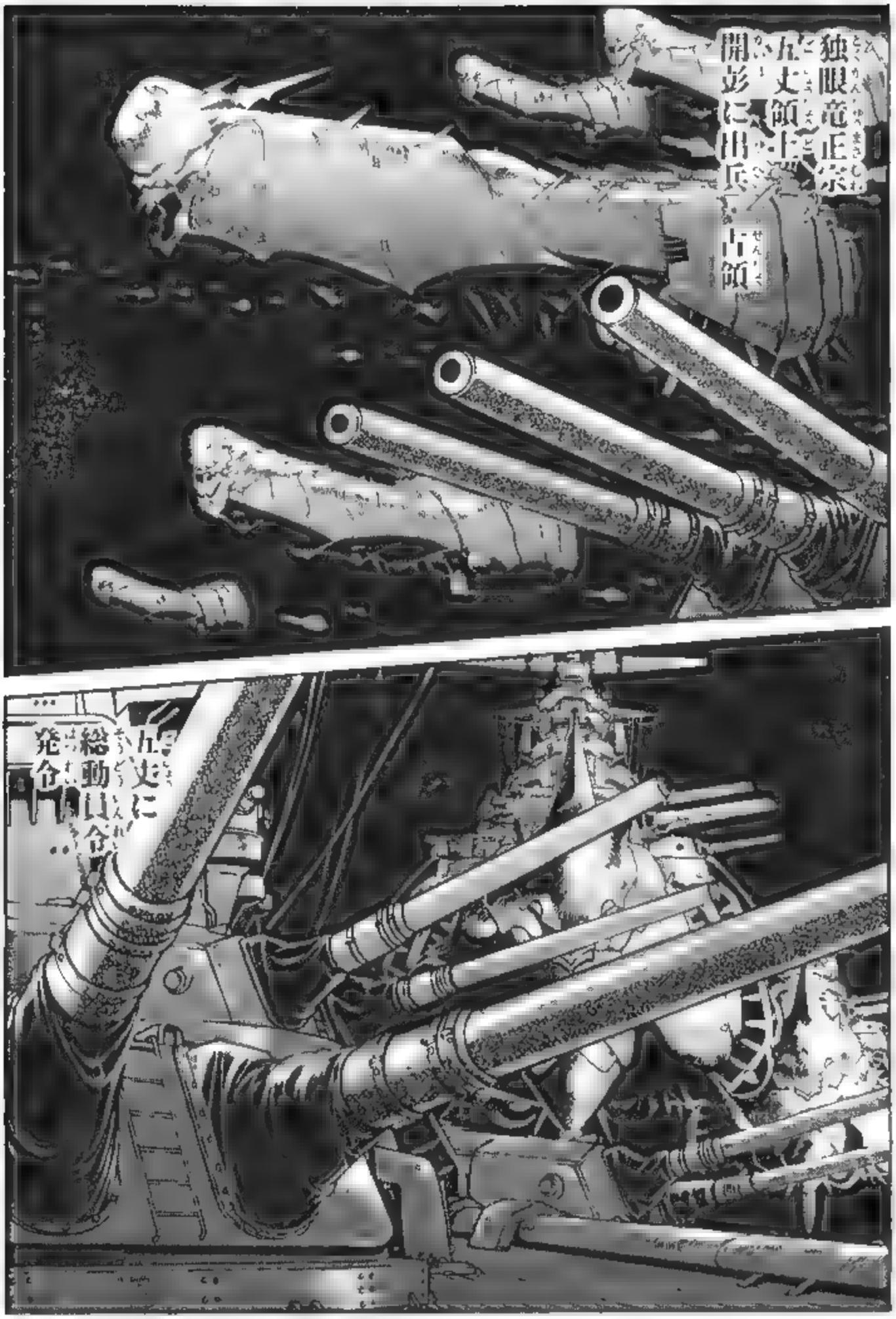


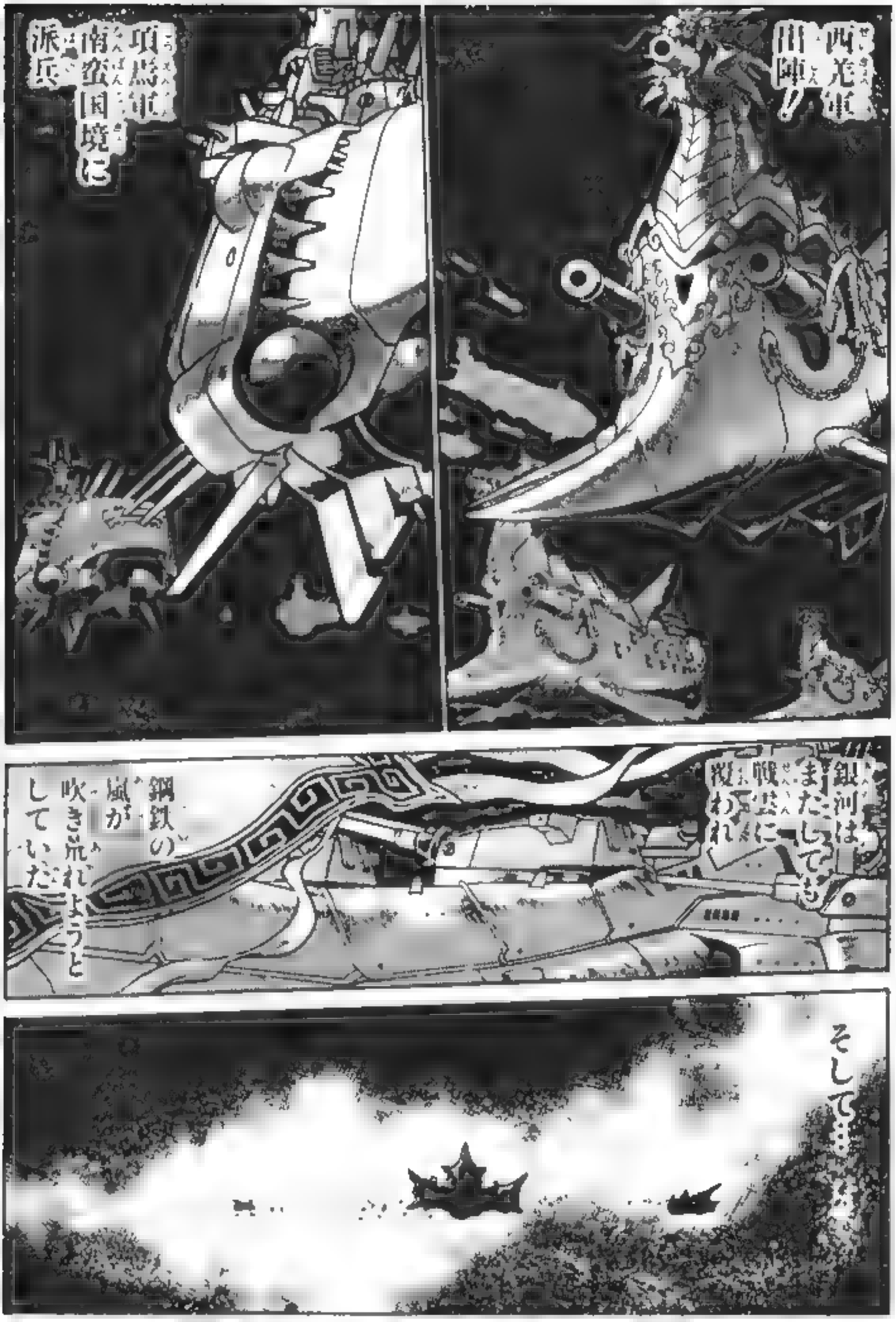
さらばだ…
せかれよ…

親父〜〜〜!

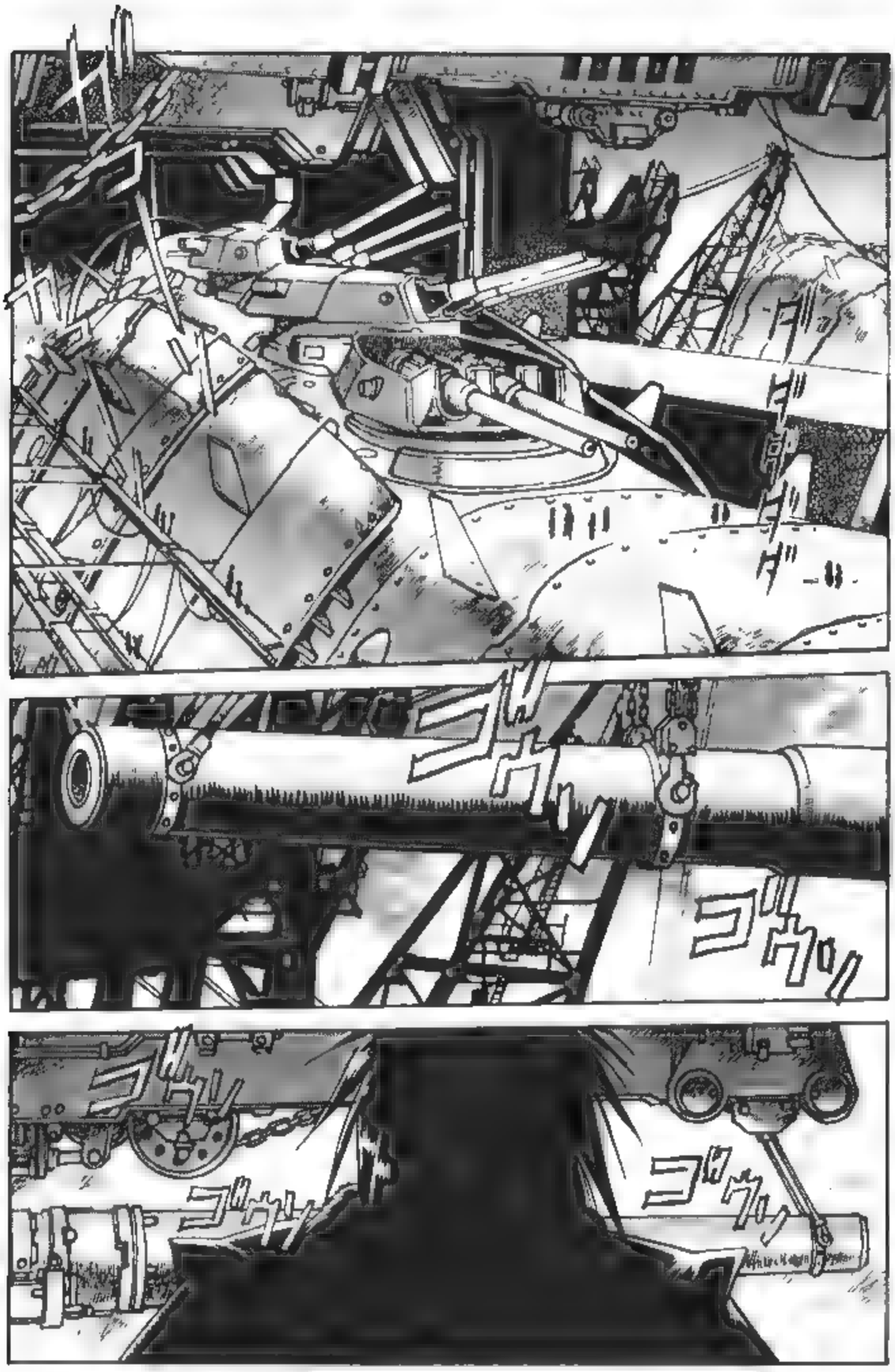
みんな
行って
しまったかわね
お城も
寂しくなるわ…
そやなあ…
う……
麗羅！
とうしたの？
さっきから
顔色が
悪いわ！
なんや
ムカムカ
するんや…
飲みすぎ
やろか…
うぷっ

麗羅……！
あなた
もしかして
……の国
え？


独眼竜正宗
五丈領土
開彭に出兵
占領
五丈に
総動員令
発令


西羌軍出陣!!
項馬軍南蛮国境に派兵
銀河はまたしても戦雲に覆われ…
鋼鉄の嵐が吹き荒れようとしていた
そして…

今ここに・五胡・西羌連合軍・智
そして練・南蛮連合軍の三つ巴の大決戦の幕が上がった!!
破れた者が滅ぶ……!!
もはやこの戦いは誰の手にも押し留めることはできなかったのである……!!



正宗様
空模様が
怪しくなって
まいりました
こんな
ふきさらしては
お身体に
障りますゆえ
とうか中へ
困りますなあ
今は薬で
散らしておりますが
今少しお身体を
いたわって
いただかないと……
もし今度
血でも
吐かれなさったら
……
心配をかけて
すまんな
自分が
智王に対して
なすべきことは
何かと思案していたのだ
どう
命を燃やし
尽くせるかをな
そのような
不吉なことを
申されますな
あなた様は……
正宗様！
すぐに
本営にお戻りを!!
五丈原が大挙
接近しております！

大挙だと？
はっ 物見の知らせでは八個軍団を下らないと……！
中央には竜我の大将旗も見えるそうです！
五丈は全軍をあげて攻めてきました！
正宗様!!
飛竜よ
わたしは賭けに敗れた……！

！
このたびの
闘影への
出兵は
一つの賭けで
あった
五丈が
強大な
羅刹軍と
対峙している
以上
我々の出兵を
黙認するだろうと
踏んでいた…
例え
動いたとしても
せいぜい
二～三個軍団
とも…
それだけ
竜我は
羅刹よりも
正宗様を
怖れているのでは！
いや
違う！
やつらは
今なら
このわたしを
倒せると
思っているのだ…！

え？
恐るべし
竜我雷…
そして
大覚屋師真…
やつらは
わたしの
賭けを
見抜いた
だけではなく
このわたしの
命数まで
量りおった
のだ…！
ぐっ……!!

正宗様――っ!!

とうなんてす
典医殿！
お静かに
飛竜様
……
お身体が
相当に弱って
おります
竜我来賜の報て
心中の衝撃が
大きかったの
でしょう

皆の者……
正宗様！
大将軍!!
典医殿を
攻めるでは
ないぞ……
わたしが
頼んだ
ことなのだ
……
心配するな……
少し眠る……
正宗様……
正宗様は
智の柱石……
その正宗様が
倒れてしまわれたら
智の命運は
決する
我々の
身のふり方も
考えねばなるまい！
なにっ!!

それは
どーいう
意味で
ござるか!!
はばかりながら
今の智王では
練・五丈と
渡りあえまい
我らも
虜になることは
目に見えている……
今 天下は
五丈・練を中心に
統一に向かって
動いておる
武士として
天下のために働き
万世の功臣として
称されるのが
道だと思うが……
まさか
智を捨て
五丈や練に
降ると申すか!!
趙晋殿!
気は確かか!!
いや
趙晋殿の
意見も
もっともな
ところも
ござる!
そうだ!!
我らが正宗様に
忠義を尽くして
いるのも
正宗様が功績を
公平に認めて
くださるからだ
智王と
その取り巻き
相手では
怪しい
ものじゃ!

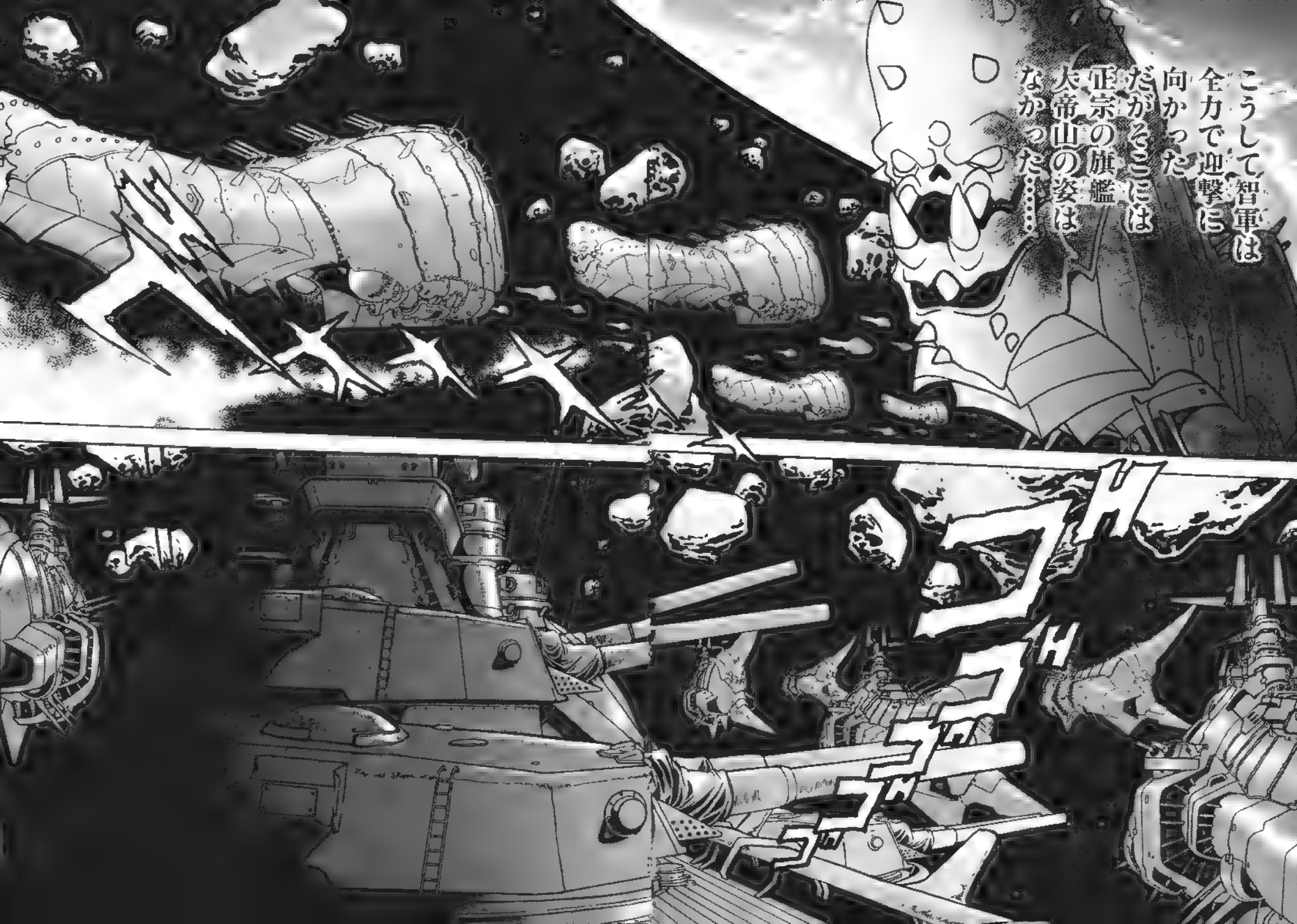
おのれ
この忘恩の輩め！
ここで
切り捨てて
くれるわ!!
お主こそ
よく目を
見開いて
現状を見据え
なされ!!
おやめ
なされ!!
先程より
聞いておりましたが
何とも
情けなや……
それでも
智軍の
精鋭・猛将か!!
く……っ
何をこの
ヤブ医者が
……！
きさまごときに
とやかく
言われる
筋合いはない!!
大体
きさまと
正宗様が
我々臣下を
たばかったのが
いけないのだ！
そうだ！
もっと早く
わかっておれば
まだ手があったものを！
正宗様は
泣いておった
のですぞ…！

!!
あの正宗様か
源太の検問竜と
呼ばれたお方か
さよう
それがしが
診察いたして
病状を告げ
その後
ああ 人で
甲板に出られでした
正宗様を
お見受けしました
手すりを
握りしめ
全身を震わせ
号泣なされて
おられた……
先王の死以来
とんなにつらく
悲しい時にも
涙ひとつこぼさなかった
正宗様が……

それがしは
声ひとつかけられ
ませんでした……
しかし正宗様は
その夜以来
屈を捨てられ
今の今まで
陣頭に
立っておられたの
ですぞ
……
すまぬ
典医殿……
それがし
武士としての
道を誤る
ところでござった…
先程のことは
忘れてくだされ
……！
九十二の想い……
今の智一への
忠義……
綾の日政に苦しむ
智の領民への
愛情……
そして何よりも
自分がともなかばで
断絶することを
あの涙ひとつひとつには
それらの想いが
こめられて
おるのです

すまんな
飛竜……
とうして……
とうして
一言も
言ってくださら
なかったの
ですか……
何度も
話そうと
思ったが……
飛竜は
優しいからな……
大将軍……
皆か？
はっ！
入れ……

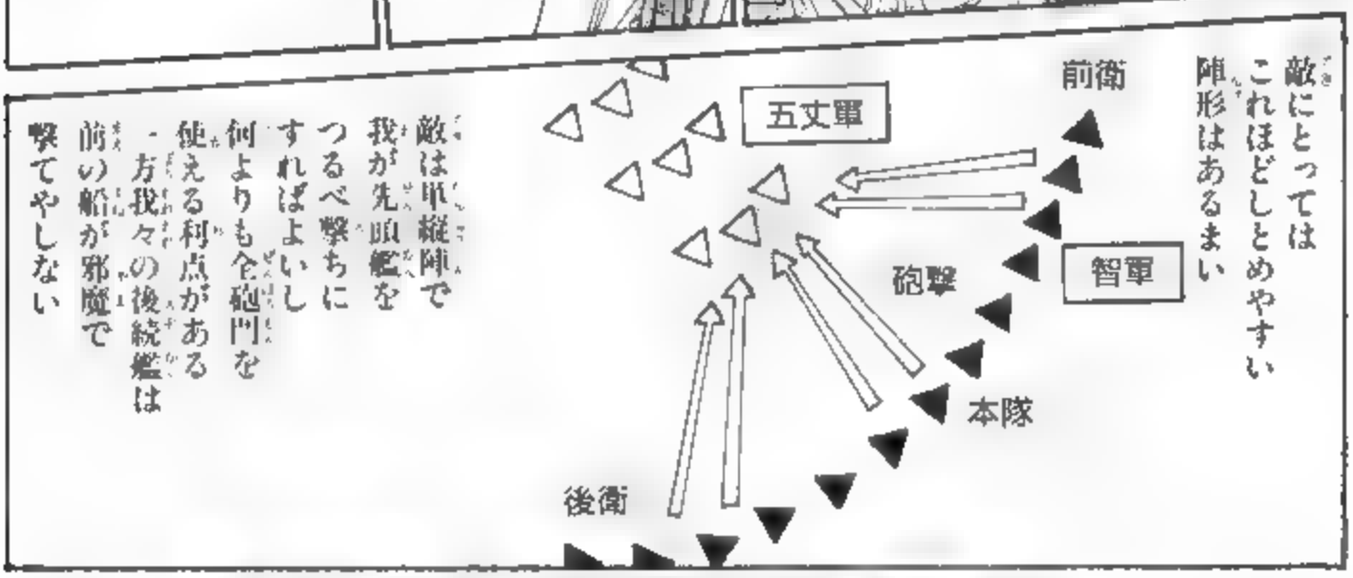
大将軍
五丈軍は
近海に布陣して
会戦を望んで
います
我らに
お下知を……！
趙晋よ
全軍の
指揮を
とれ！
ははっ!!
皆は
趙晋の指揮の下
五丈軍を打ち破れ！
智軍の強さを
見せてやるのだ
ははーっ!!
趙晋よ
天候も荒れ
守るに適して
いる
五丈は長期戦を
嫌うはずだ
それを
心してかかれ！
はっ！
大将軍は
ゆっくりと
お休みください
何人たりとも
邪魔は
させません！


こうして智軍は
全力で迎撃に
向かった
だがそこには
正宗の旗艦
太帝山の姿は
なかった……
ゴゴゴ

……
諸将よ！

先の軍議で
示し合わせた通り
今回は
衝角戦一本で
行く！
一発も
撃たねえん
ですか？
突撃している
間に
ハチの巣に
なりますぜ

この度の戦は何といっても短期決戦だ
我々は取って返し練をも討たねばならん
むろん正宗の方はその我らの立場を知っていよう……
ゆえに長期戦に持ち込めば我々が退くと思っている……
すなわち守りに徹しようとする敵を会戦におびきだすのが今回の作戦だ！
我々は三層からなる楔形横陣で突入する


敵にとってはこれほどしとめやすい陣形はあるまい
前衛
五丈軍
智軍
砲撃
本隊
後衛
敵は単縦陣で我が先頭艦をつるべ撃ちにすればよいし何よりも全砲門を使える利点がある
一方我々の後続艦は前の船が邪魔で撃てやしない

これじゃ七面鳥を撃つより簡単だ敵にぶつける前に全滅ですぜ
どうします？
言ったろこいつは敵を引っ張り出す作戦だって

実際は
こうもうまくは
いかねえのっと♡
見てみろ
外を！
ただでさえ
岩礁の多い中に
この天候だ
動揺する艦から
発射された砲弾は
強風にあおられ
命中率は
極端に落ちる
それに
この智軍の
戦艦だが……
砲塔が全て
首尾線上にある
つまり全砲門を
片舷に発射
できるから
砲撃戦には
もってこいだ
だが
この三連装
砲塔には
機構的な
欠陥がある
砲と砲の
間に揚弾機が
ある
つまり三門に
対して二基と
いうことだ
一方が二門の
主砲に砲弾を
こめる
これじゃ
発砲速度は
遅くなる
つまり額面上の
砲力は無いと
いうことさ

なるほど
恐るるに
足らんと
いうわけですかい

いやさすが
情報を重視する
軍師殿だ

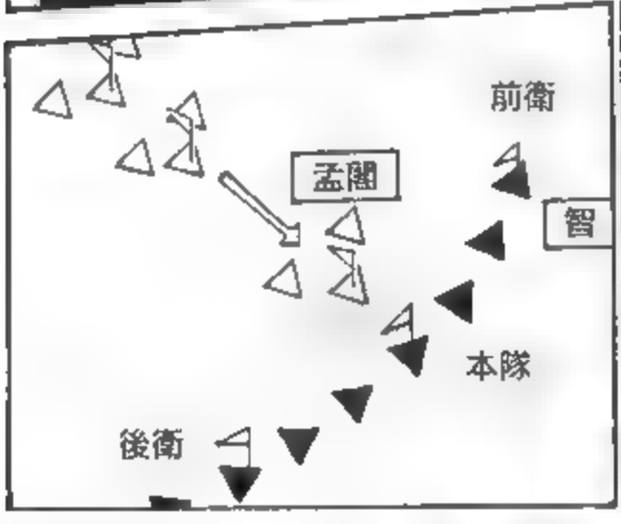
作戦を伝える！

はっ!!

孟閭殿は
第一陣を率いて
敵中央の旗艦に
向かって
突進する

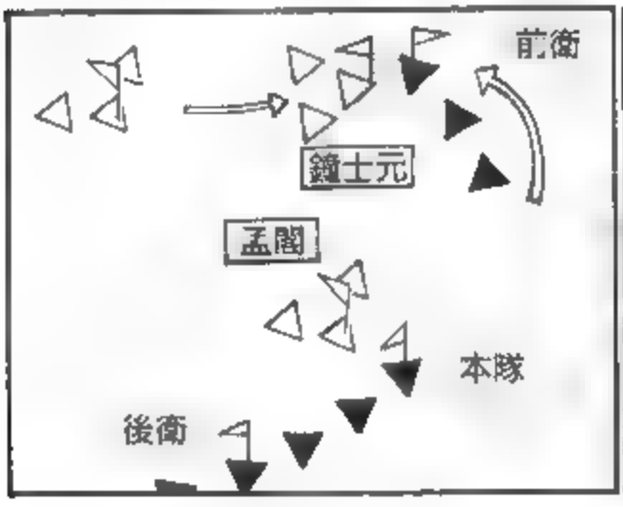
前衛と
本隊を
切断するのだ

はっ



鐘士元は
第二陣で
切断された
敵前衛を
叩く！

おうっ



金剛
鐘士元
前衛
孟關
本隊
姚文
後衛
姚文は
後衛を……
これで
敵は三分割され
その上 旗艦からの
命令系統も
切断できる
わかりました
後は
各々包囲した
敵軍を
殲滅するのみだ
軍師
ひとつ
質問が……
出港前に
急いで作らせた
アレは何です？
木材や鉄骨で
造った骨組みの上に
帆布に旗をたてた筏……
ですかな……？
あんなのを
何に
使うつもり
ですか？

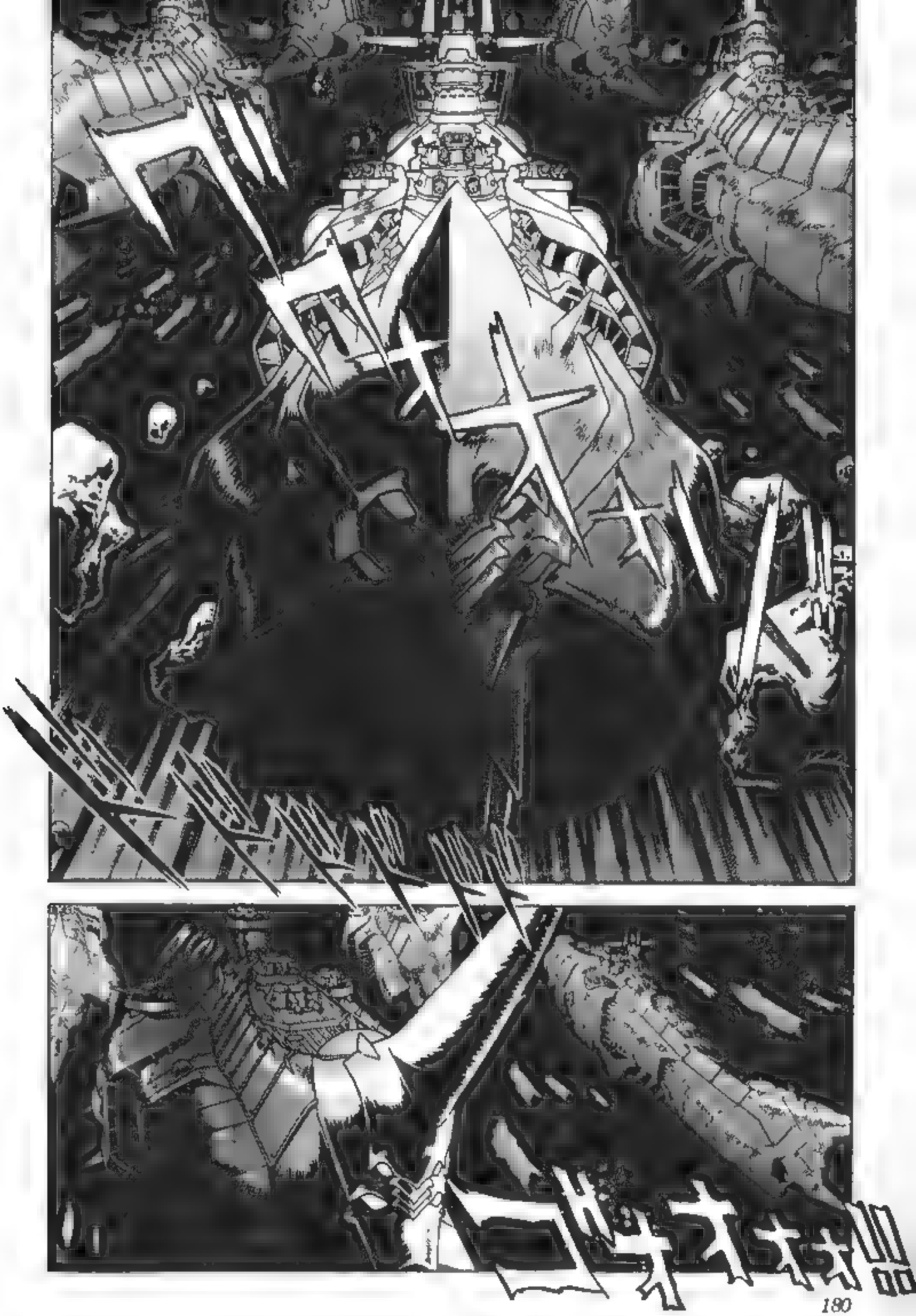
あれは項武だ
はあ？
正確に言うと項武軍に化けた欺瞞艦隊だ
敵側に項武軍がいるかのように思わせるために数を水増ししている
では項武は？
我が特命ですでに進発している
まあこいつは秘中の秘だ！聞くな
陛下いかがでござるか？
陛下？

どうなさいました陛下
正宗がいない……
!!
大帝山が見えませんか？
しかしまだ距離がありすぎますが
見なくてもわかる……感じねえんだよあいつの気配を……
あのピリピリってしたやつをな……
正宗の身に何かが起きている……
天文がそう示していると申しあげましたその通りの様ですな！

竜
針

その時、智の総指揮をとっていたのが代将・趙普であった
智軍の中でも勇将と知られた男だが、正宗の計策をいくつか会戦に積極的には応じず長期戦を狙っていた
だが彼の目の前に広がるのは撃ってくださいとでもいわんばかりの五丈軍の陣形だった
慎重な男ゆえその挑発には乗らなかったかもしれないが……
趙普は先に降伏論を唱えた後ろめたさがあった
ここでの勝利で罪滅ぼしをしようと考えたのである
兵法にも敵倒向戦で備え来たらば我は組覚をもって押し辺みて打つべしとある
趙普はとつさに陣形を車縦陣に変えた

全軍
突撃――っ!!
全軍
我に続けーっ!!
行くぞ!!
突撃だ――っ!!



!!
敵艦、こんでございます!!
距離八千で砲撃開始!!

ד
ן
!!

何をしておるこの距離で当たらんのか！
目をつぶっても当たるぞ!!
船の動揺が激しくて敵を正確に補足できません！
なっなにいっ!!
ええいっ撃って撃って撃ちまくれ――っ!!
敵先頭艦に集中射撃!!
ドオオ!!

正面突破です！
よーし
行くぞー！
うおおお

戦いは
師直の
思惑通りに
進んだ
敵は
分断され
それぞれ
九天師に包囲
されていた
しかし
智軍も
正宗に鍛えられた
精鋭であり
また数でも
九天に勝っていた
指示系統を
寸断されながらも
よく戦っていた
交戦開始後
時間たって
進一退の戦い
となった
それが
九天の勝利に
導いたのは
項武の働きだった

正宗は
出陣じてでいない
確信していた
師匠の命により
彼は密かに
陣中より離れ
大迂回をして
開彭本陣に
向かっていたのだった
それを
趙軍が
知ってか
なに！
敵の一軍が
開彭に……!!!
病床の
正宗が危ない
趙雲は
陣形を解き
反転して
開彭に向かうよう
命じるしかなかった
これで
五大軍と互角に
渡り合っていた
智軍に乱れが
できた

ドドド

うおりゃあっ!!
どわあっ!!
五丈軍の包囲網を逃げ出せたのは ほんの一握りの船しかいなかった……
智の一万は開彰沖で壊滅したのである!!

飛竜
わたしを
起こせ！
正宗様！
いけません
どうか
横になっていて
ください！
戦況が
気になるのだ
いいから
肩をかせ！
命令だ!!

おおっ…!!
その正体が
目にしたのは……
今まさに
壊滅しようと
している
智の軍勢の
姿だった

……
無念です……
大帝山を出せ!!
正宗様!!
もう何も言うな飛竜……
わたしが残り少ない命で何をすべきかがわかったのだ……!!

竜我雷(りゅうがライ)の
首(くび)を獲(と)る!!

ドンピシャ!!
全砲門
開けぇ――っ!!
そして今
その女傑が
再び雷の前に
立ちふさがる!
て――っ!!
そして時代は
超銀河大戦へ…!!
独眼竜正宗…
その名を記すだけで
後世の歴史家の
筆をもつ
指が震えたという…
母国への熱い想いと
消えゆく命の
灯を
燃えあがらせようと
正宗は
雷に挑む!
嵐吹きすさぶ
十五巻を待て!

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑭

1996年10月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館　電話03-5281-5213(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-5280-7550(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1996

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ '96年2月号、3月号、5月号－7月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-305254-3 C0979